

車体 NEWS

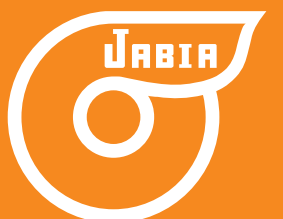
AUTUMN 2015 秋

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



CONTENTS

巻頭言	2	そこが知りたい	
NEWS 特集		「ロボットの進化と普及」	23
講演会「最近の自動車技術行政について」	3	働くクルマたち	
NEWS FLASH		第10回 災害支援時に活躍する車両	25
本部だより	5	Coffee Break	27
部会だより	7	我が社の元気人	29
支部だより	9	DATA FLASH	
官公庁だより	10	2015年1月～6月 会員生産状況概要	30
会員情報	13	編集後記	33
月度活動状況	15		
Net Work			
vol.80 共立工業(株)	19		
VOICE			
平本工業(株)	21		
(株)エクシング	22		



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp



グリーン経営で実現できます!

グリーン経営とは…

「環境に配慮した会社経営」で、企業の社会的責任として環境面にも積極的に取り組む会社経営です。
国土交通省をはじめ各業界団体の協力を得て、エコモ財団が推進しています。

★環境にやさしい取り組みをしている
運輸事業者を是非ご利用下さい!

運輸部門のグリーン経営認証とは…

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、内航海運、旅客船の事業ごとに「環境にやさしい取り組みをしている運輸事業者」を認証する制度がグリーン経営認証です。

エコドライブや自動車の点検整備、エネルギー効率の向上、廃車・廃棄物の発生抑制、適正処理、リサイクルの推進などの具体的な環境活動が評価され約7,300事業所が認証を取得しています。

「認証基準」、「取組事例」、「講習会開催予定」など詳細は [グリーン経営](#) で [検索](#)

*グリーン経営認証専用ホームページ <http://www.green-m.jp/>

輸配送をしていますか?

環境にやさしい



和風天井灯



和風柱灯



和風ダウンライト

落ち着いて長時間過ごせる優雅なバス旅。
温かみのある電球色LED装飾を設置して、
和風の落ち着きある雰囲気づくりを。

夢のあるバスを応援する GOLD KING

ゴールドキングは、一車両からでも記憶に残るバスづくりをお手伝いします。

お客様に創業から60年育てられ成長したゴールドキングです。
お客様のご要望に合う、特別仕様の商品企画、開発設計、生産についてお気軽にご相談ください。

ゴールドキング株式会社

詳しくは、<http://www.goldking.co.jp>

GOLD KING 検索

本社 〒454-0912 名古屋市中川区野田1-380
☎<052>352-2421 FAX<052>361-1402

東京 ☎<03>3861-5851
仙台 ☎<022>232-1458
大阪 ☎<0729>85-7491

名古屋 ☎<052>354-7331
北陸 ☎<076>493-8778

巻頭言

2020年以降、 次の時代に備えて

九州支部長 矢野 彰一
(株)矢野特殊自動車・代表取締役社長



2005年頃、ドライバン・ウィング車の市場ではメーカー完成車の普及が進展していました。車体工業会バン、トラック部会会員の中小企業の売上が徐々に減少し、各社は環境変化に対応すべく懸命に努力を重ねていました。そんな最中の2008年にリーマンショック。この影響は中小企業のみならず当工業会会員全体に売上激減の影響を及ぼしました。そして、会員各社が、人員の削減、製品構成や事業構造の見直し、政府助成金の活用、資産の整理・縮小、あるいは事業のM&A等企業の存続に全身全霊を注ぎました。その後、市場の回復と共に、各社のリストラ効果も徐々に表れ、2011年の震災の復興特需も後押しして、業界は息を吹き返していきました。更に2013年からのアベノミクスで需要に更なる拍車がかかりました。各社は時代の荒波を乗り越え成長し、新しい環境下での自社のポジション(棲家)を再構築されたように確信します。

九州支部会員を取り巻く状況

全会員が中小企業である九州支部においても、ほとんどの会員会社がこの時代のサバイバルに残りました。各社が各社なりの身を切る努力で、厳しい環境に適合する姿に変貌していったのです。各社の底力に本当に驚くと共に衷心より敬意を表します。そして現在、九州支部の会員は、とても元気に活動されています。まだ再建途中の会社もありますが、本部正会員に加盟する企業も8社となり、更に増員の可能性を持っています。

しかしながら、現在の市場環境も、近い将来また大きく変わることは明白です。今この元気な時代にこそ次の変化に備えて準備しておくことは、大変重要な課題ではないでしょうか。

チャレンジ5推進活動による提言

当工業会本部の中小企業支援の重点活動として「チャレンジ5推進委員会」2014年度調査分析報告が本部正会員に配布されました。3年目となる本活動ですが、今回のテーマは、震災や2020年の東京オリンピッ

ク・パラリンピック等の特需が消失した、またTPPが批准された次の時代でも営業利益率5%を維持しつつ、継続、発展できる企業であるために努力すべきことであり「次の時代に備えて」必要とするものでありました。

その報告書の要旨は、日本社会が迎える大きな変化の中で、経営のあり方として3項目、①労働環境として「柔軟な雇用と組織マネジメントの追求」、②経営環境として「地域の独自性、専門性ある企業を目指す」、③更なる発展成長戦略として「ニッチトップ企業への挑戦」が求められるというもので、政府の方針にも合致する確かつ意味深い提言となっています。また、各社の「基本的経営力の強化」は継続的課題として掲げられています。

九州支部でのこれからの取り組み

九州支部においても、今後この提言を反映して、より有益な支部活動を計画していきたいと考えています。そして、その施策として、会員同士の交流を活性化し、各社が前記の①～③及び基本的経営力強化の課題にいかに取り組んでいるか、お互い学び刺激し合う機会を持つことは大変有効と考えます。経営幹部の交流機会のみならず、現場レベルの交流機会は、社員の経営参画意識を高めるためにも、より重要なことではないでしょうか。

②の「独自性、専門性の追求」、③の「ニッチトップ挑戦」についても難しく考えず、今、目前にいるお客様のご要望を再度確認して、小さな改良を積み重ね、少しずつ進化させることで推進できるのではないのでしょうか。ドライバー不足のこの時代に新たな要望も芽を出しております。小さな市場で地道な努力を重ねてニッチトップへ、そんな事例も交流で学べるものと確信します。

九州支部では、今年度の改善事例の勉強会兼工場見学会を支部会員企業で開催、また東京モーターショー見学と他支部の優良企業見学会を組合せた研修会を計画しております。今後も、本部の皆様そして各会員の皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

最近の自動車技術行政について

国土交通省 自動車局
審査・リコール課 課長
斧田 孝夫 氏

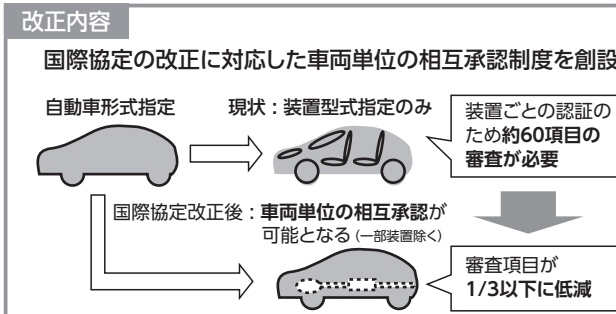
2015年7月16日、日本自動車会館「くるまプラザ」において、国土交通省 自動車局審査・リコール課斧田孝夫課長をお招きし、「最近の自動車行政について」ご講演いただいた。

国土交通省が進めている施策全般について、基本的な考え方、今後のスケジュール等幅広い範囲に渡ってご説明を受けた。当工業会に関連が深い事項も多く含まれており、当日参加した約120名の会員にとって、同省の活動への理解を深める機会になるとともに、官民で取り組むべき、これからの課題を共有することができた。

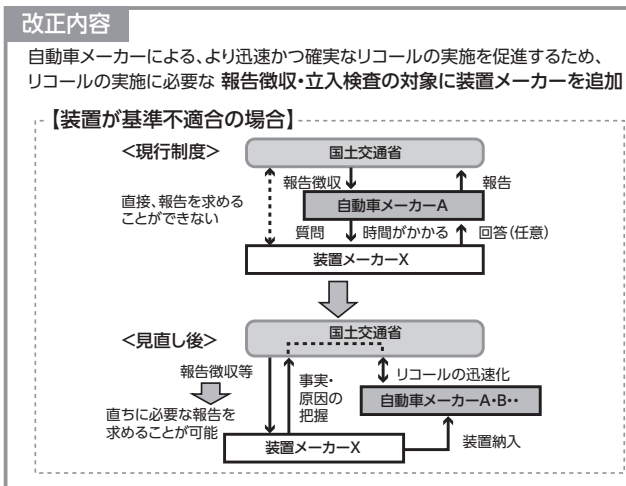
最近の自動車技術行政について(概要)

1. 道路運送車両法改正

① 車両単位での新たな相互承認制度の創設



② リコール制度に係る装置メーカーへの対策強化



③ 図柄入りナンバプレート制度の創設

2. 先進安全自動車(ASV)の開発・普及

- ① 検討・調査
- ② 基準策定、補助制度、税制特例
- ③ 自動運転への対応状況
- ④ 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)

ASV：Advanced Safety Vehicle
SIP：Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

3. 最近の排出ガス規制(ディーゼル重量車)

軽油を燃料とする車両総重量3.5tを超える普通自動車及び小型自動車(乗車定員10人以下の専ら乗用の用に供する自動車を除く。)を対象に規制を強化。

4. 環境対応車の開発・普及促進

- ① 世界最高水準で先進的な燃費基準の策定
- ② 普及促進
- ③ 地域交通のグリーン化を通じた電気自動車の加速度的普及促進

5. 自動車基準認証の国際化

① 自動車基準認証の国際標準化

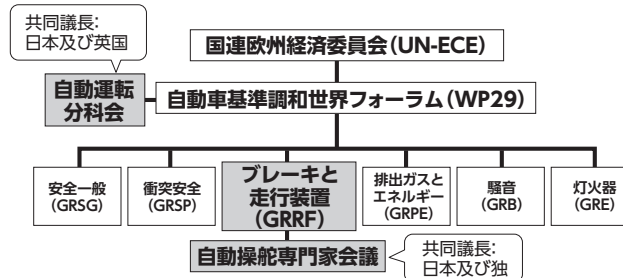
非関税障壁の撤廃・防止による我が国企業の成長市場の獲得拡大とともに、安全・環境性

能に優れた自動車の普及の促進を通じた交通事故防止と大気汚染改善により国際貢献する。

② 日本の技術・基準の戦略的国際標準化

国連の自動車基準調和世界フォーラム(WP29)において、積極的に国際基準の策定・調和を推進。特に、最近では先進安全技術を中心に、安全・環境基準の国際基準策定に向けて取り組んでいる。

国連WP29に「自動運転分科会」(2014年11月)及び「自動操舵専門家会議」(2015年2月)が設立



③ 基準認証のグローバル化に対応する体制の整備

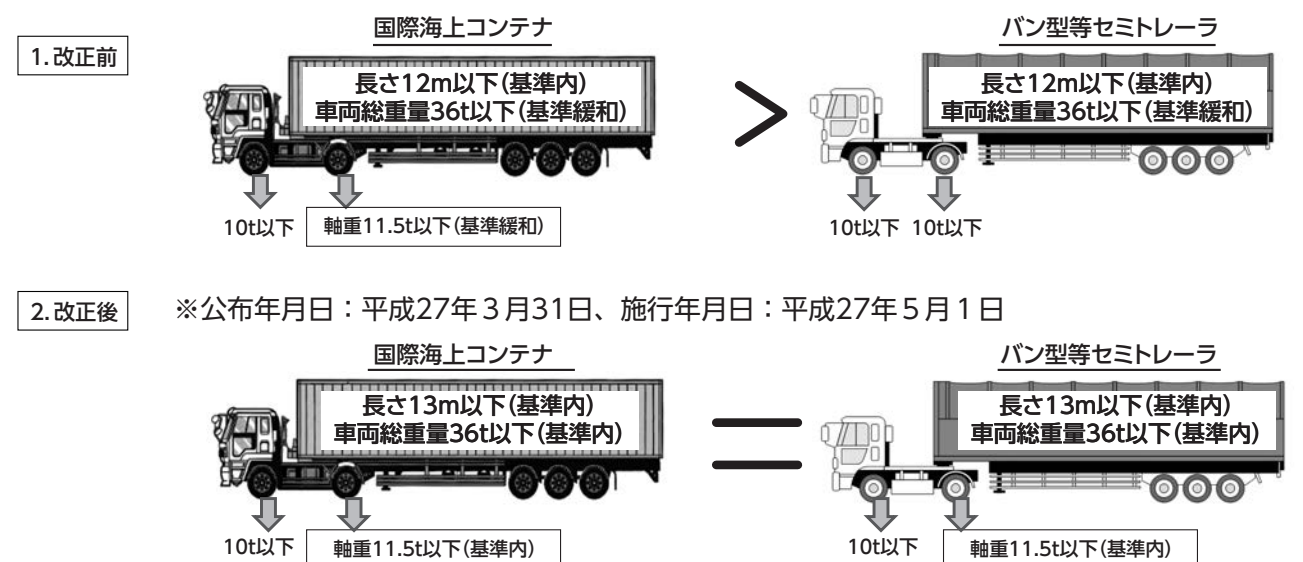
6. 自動車関連情報の利活用の取組みについて

- ① 自動車関連情報の利活用に関する将来ビジョン
- ② 「自動車関連情報の利活用に関する将来ビジョン」の成長戦略等への位置付け
- ③ 安全OBDに対応したスキャンツールの共通化の推進(OBD：On Board Diagnosis 車載型故障診断装置)

7. 道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化方針

- ① バン型等セミトレーラをけん引するトラクタの駆動軸重等の限度引上げ
- ② 45フィートコンテナ等の輸送を可能とするため、バン型等セミトレーラの全長の限度引上げ
- ③ バン型等セミトレーラの車両総重量の限度引上げ

バン型等セミトレーラ連結車の駆動軸重等の引き上げ概要 ※長さ=キングピンから車体後端までの長さ



8. トレーラ等に係る改善事項

① リコール関係

整備事業者に向けて、日整連発行の機関誌に、トレーラの点検整備に関する啓発を、定期的に掲載予定。

ユーザーには、スプリングチャンバ及びダイヤフラムの定期交換の重要性の周知→運送事業者に対し「トレーラ安全運行のための重要なお知らせです。」を配布。

② 定期交換部品交換未実施による車両火災への対応

9. 車体フレーム腐食による事故への対応

凍結防止剤によるフレームの腐食のためロワーアームがフレームから脱落し、ハンドル操作が不能となったことが原因による事故が発生。整備事業者、バス事業者に対して、腐食による事故の再発防止の更なる対策を周知した。

10. 装置監査時における突入防止装置等に係る指摘事項

指定を受けた特定装置の製作者等は、当該装置が保安基準に適合し、かつ均一性を有するよう、品質管理体制を維持する必要がある。そのため、国土交通省では、特定装置の製作者等に対し監査を実施し、品質管理体制等の確認を行っている。

■中央技術委員会開催

中央技術委員会(委員長・筆谷高明・極東開発工業(株)会長)では、6月30日、当会会議室において、2015年度第1回中央技術委員会を開催し、事業計画の確認と関係情報について討議を行った。主な内容は次のとおり。

- 1) 法規関係の対応
 - ①番号標の視認性に関する新法規の最新状況共有
 - ②保安基準等の改正情報周知
 - ③保安基準の適用開始時期周知
 - ④衝突被害軽減ブレーキの装着困難車両への対応状況周知
- 2) JABIA規格の新規制定及び改訂の進捗状況 他
- 3) 経年品質保証に関する仕組みづくり検討
 - ①必要性等に関する調査結果報告
 - ②今後のスケジュール確認
- 4) 会員の技術レベルアップ支援
 - ①国交省に届出したリコール案件について周知
 - ②第9回技術発表会テーマ募集に関する周知
- 5) 突入防止装置技術委員会
 - ①突入防止装置の協定規則R58第3次改訂提案に関する最新情報周知
 - ②JABIAプレート制度運用実態訪問調査計画について報告

■「タンクローリ解体作業見学会並びに意見交換会」を実施

環境委員会架装物リサイクル分科会(分科会長・新免俊彦・極東開発工業(株)品質保証部長)では、6月26日、日本ELVリサイクル機構(以下ELV)、日本トラックリファインパーツ協会(同JTP)及び日本自動車工業会(同自工会)と合同で、22名(ELV・JTP9名、自工会5名、車工会8名)が参加し、JTP協会加盟店である(株)ダイワ商会(長野県安曇野市)の見学会を実施した。

同社は自動車中古部品の販売、使用済み自動車の解体等を事業内容としている。

当日はタンクローリ(2キロリットル灯油運搬車)の手バラシの解体作業見学を実施。解体を始める前に、当会のホームページに掲載されている架装物解体マニュアルを準備され、事前に内容の確認が行なわれていた。その手順に従い解体は進められ、最初にシャシとタンクの分離、次に

配管内油抜き、艀装品取り外し(配管類、フェンダ等)、タンク解体(バーナーにて胴板切り取り)と作業は解体マニュアル通りに完了し、解体作業に問題ないことを確認した。

作業見学後の意見交換会では、「塵芥車等油圧装置が搭載される車両で、油圧装置内の油を上手く抜けるようにできないか」の提案があり、「今後一括で抜けるような工夫を検討する」と回答されるなど、活発な意見交換会となった。またこれまで車工会・自工会が取り組んできた「解体し易い架装物」の効果や解体マニュアルの有効性も同時に確認でき、大変有意義な見学会並びに意見交換会となった。



作業前



作業後

■「2015年度チャレンジ5活動推進の取組み」について

チャレンジ5推進委員会(委員長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、6月3日に第1回委員会を開催し、昨年度に引き続き、事業計画の柱のひとつである「チャレンジ5活動の推進」の取組みを開始した。

昨年度同様、独立系、地場架装メーカーの若手経営者や次世代経営者10名を委員として、2015年度は、過去3年間の「将来ビジョン検討」、「チャレンジ5活動」の結果を踏まえて、将来の事業基盤の強化と営業利益率5%の実現に結びつく経営方策を具体化するために、経営品質向上に資する研究、提案を行うとともに、自動車産業戦略にコミットした車体架装の成長戦略の検討、推進及び業界横断的なアライアンスの検討を行っていく。

具体的には、一つ目のテーマとして、過去3年間の成果に立ち、「ニッチ企業として成功を目指すこと」、「そのために『選択と集中』すること」、「今後の事業環境変化の中で経

営の高質化を目指すこと」の視点で、他業種の成功企業を対象として分析し、今後の具体的ビジネスの取組みに資するため、経営品質向上のための事例研究を実施する。

また、二つ目のテーマとして、経産省「自動車産業戦略2014」で、車体業界を含む参画が求められている業界横断的なアライアンスへのロードマップの策定のため、過去3年間の結果と、2013年に策定した「自動車車体工業の中長期ビジネス展望」に基づき、業界横断的な視点から、その再検討及び発展としての車体架装の成長戦略の検討と推進を実施する。

これらの結果を、来年3月に報告書としてまとめる予定である。

■第21回自動車産業労政合同会議を開催

人事労務研究会では、7月30日、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、日本自動車工業会会議室にて第21回労政合同会議を開催した。

はじめに「労働者派遣法改正案の留意点について」と題し、弁護士の木下潮音氏が講演した。

改正案の概要として

- ①派遣事業の健全化(特定労働者派遣事業(届出制)と一般労働者派遣事業(許可制)の区分を廃止し、全ての労働者派遣事業を許可制とする)
- ②派遣労働者の雇用安定とキャリアアップ
- ③労働者派遣の位置付けの明確化
- ④より分かりやすい派遣期間規制への見直し(いわゆる「26業務」の期間制限がかかるのを廃止、事業所単位、個人単位とする)
- ⑤派遣労働者の均等待遇の強化
- ⑥検討規定

の6つについて説明がされた。また、2015年10月に施行される「雇い入れみなし制度」では、混乱が予想され、混乱を回避するためにも分かりやすい規制への改正が必要であると指摘がされた。

講演会後は、事務局より「検討案件」として2015年三工業会合同事業活動案について説明がされ、了承された。



■第30回労政合同分科会を開催

人事労務研究会では、7月30日、日本自動車部品工業会と合同で、第30回労政合同分科会を開催、「マイナンバー

制度の対応状況について」、「社内マイスター制度の運用状況について」の情報交換を実施した。

2016年1月より実施されるマイナンバー制度に向けて参加会社が自社の取組状況を説明。情報漏洩等によるセキュリティ対策については、多くの会社が対応に苦慮しており、外部委託業者で対応を検討している等様々な回答があった。

「社内マイスター制度」について、19社中、制定済は4社、検討中は5社であった。

続いて、マーサジャパン(株)の組織・人事変革コンサルタント部門プリンシパル古澤哲也氏より「グローバルHR(Human Resources)のトレンドから」と題し、人事制度に関するグローバル化についての事例紹介がされた。今後の日本企業の国際化については、経営基盤の国際化と経営幹部の国際化の2つのアプローチが必要であり、経営幹部の国際化のためには、単に海外経験を積むのではなく、グローバル経営リテラシー(応用力)を身につけることが有効とのことであった。講演後、活発な質疑が行われ、充実した会議となった。



■第11回自動車産業労務担当役員懇談会を開催

人事労務研究会では、8月4日、浜松町東京會館にて日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で自動車産業労務担当役員懇談会を開催した。

本懇談会では、毎回様々なテーマでの講演会を実施しており、今回は「インダストリー4.0が自動車産業にもたらす衝撃」と題し、(株)ローランドベルガー代表取締役日本共同代表で工学博士の長島聡氏が講演した。インダストリー4.0は、機械化、電動化、自動化に次ぐ、「ICT(Information and Communication Technology)の進化・普及により産業全体の相互関係性が向上する第4の産業革命」としてドイツで提唱され、工場の中の設備のみならず、サプライチェーンまで含めたあらゆる「モノ」をインターネットにつなぎ、最適を促進し、極めて高い生産性の実現を目指しているものであり、参加者の関心も高かった。



特装部会

■工場見学会の実施

特装部会粉粒体運搬車技術分科会(主査・平野秀仁・極東開発工業(株)名古屋工場設計課長)では、7月28日、5社5名が参加し、当分科会主査が勤める極東開発工業(株)名古屋工場(愛知県小牧市)の見学会を実施した。

同工場は1970年に操業を開始し、主な製品はテールゲートリフター(以下TGL)、粉粒体運搬車、大型ダンプ、タンクローリ等となっている。また、ISO14001の取得や廃棄物の管理等、環境への取組みも積極的に行っている。

今回、同工場内の成形工程、製缶工程、組立工程、塗装工程、検査工程等をつぶさに見学することで、参加者にとっては同業他社の見学会であったが、大変参考になったと好評であった。特に、溶接時の粉じん対策として作業員が装着している「電動ファン付呼吸保護装置」や、TGL生産ラインで

実施している専用モニターによる「工程管理の見える化」については、関心が高かった。



特種部会

■「管理・監督者層対象の合同研修」を開催

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所会長)では、6月19日、会員各社の管理・監督者を対象とした合同研修を、当会会議室で開催した。

研修の合同開催については、部会内で2013年度からアンケート調査結果による部会内のニーズを踏まえて検討を続けてきており、この度初めての実施に至った。

今回は、管理・監督者層に求められるリーダーシップ教育及びコミュニケーション能力向上、同業他社の同世代との関係構築を目的に、部会会員8社から22名が参加して行われた。

当日の研修では、PHP研究所の場合清晃氏を講師に迎えて、より良き職場環境を築き、「マネジメント力・組織統括力」を高めるとともに、グループ討議を通じて、参加者の

リーダーシップ能力向上を図るためのプログラムが進められた。

終了後、参加者からは、多くの“気付き”があり、職場に戻って実践することで部下や後輩の育成だけでなく、自分自身が変わるためにも、非常に多くのことを学ぶことができた、といった声が多く聞かれた。また、同業他社の方との情報交換が図れて、今後の関係構築もできたとの声も多数聞かれ、今回

の合同研修の目的である「基本的なリーダーシップとコミュニケーション能力の向上」並びに「研修を通じた同業他社の同世代との関係構築」ともに達成することができた。



トラック部会

■部会会議及び工場見学会を実施

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では、8月21日、19社25名が参加し、部会会議及び北海道車体(株)本社工場の見学会を実施した。

工場見学会では、はじめに坪川副社長から社歴並びに会社概要、製品について説明を受けた。北海道車体は、創業当初から受け継がれた多品種生産のノウハウを活かして、独自の「オーダーエントリーシステム」を構築し、お客様のニーズに最適な設計と品質で、付加価値の高い製品を造りだしている。バンや冷凍車のパネル、ローリのタンク、トレーラフレーム等の部品工場が整備され、車体架装はトラックの専用ライン、そしてトレーラは専用工場でそれぞれ効率的に生産されている。

今回も、5月の見学会と同様に多数の会員が参加し、会員の関心が高いため密度の濃い意見交換がなされ、有意義な見学会となった。



トレーラ部会

■静岡県トラック協会主催の「海上コンテナ部会研修会」において講演

サービス委員会(委員長・田爪龍也・日本フルハーフ(株)サービス部長)業務委員会(委員長・河内和仁・東邦車輛(株)営業部長)では、6月23日、静岡県トラック協会海上コンテナ部会主催の研修会で、トレーラ部会委員が講師として、「日常点検・定期点検のお願い」・「ABS装置・ROC装置の安全の有効性について」について紹介を行った。本講演会には、静岡県トラック協会海上コンテナ部会から41社48名が出席した。

はじめに「日常点検・定期点検の重要性」と「各重要部品に関する点検のポイント」について説明、その中で当会トレーラ部会が発行、推進している「トレーラの点検・分解整備記録簿」と「トレーラ点検整備の手引き」を紹介し、活用の依頼を行った。

続いて「より安全なトレーラをめざして」と題したDVDで、ABS装置・ROC装置が実際に作動する状況を見てもらうことで、安全の有効性について理解してもらった。

実際に、装置が作動し安全に回避する映像を見たことで、驚きを感じた出席者もあり、安全装置の啓発に繋がった。

最後に海上コンテナ部会の若山副部長から、感謝の意とともに、講演内容を各社に持ち帰り活用するようにとの挨拶があり、大変有意義な講演となった。

今後も各地域のトラック協会主催の研修会にトレーラ部会委員を派遣し、トレーラの安全使用の啓発活動を継続していく。



資材部会

■造幣局東京支局、東京都下水道局森ヶ崎水再生センター見学会を開催

資材部会材料分科会(分科会長・吉川徳雄・天龍工業(株)社長)では、6月19日、16社18名が参加し、独立行政法人造幣局東京支局並びに東京都下水道局森ヶ崎水再生センターの見学会を実施した。

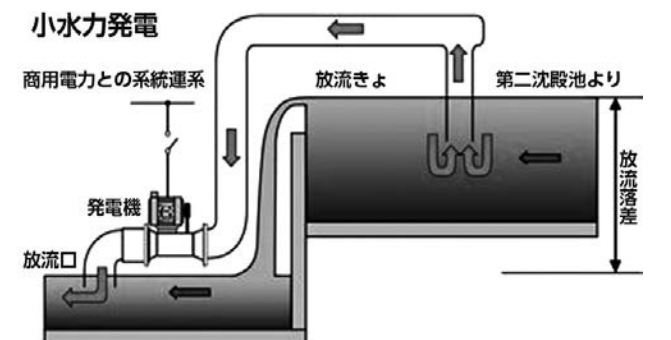
造幣局東京支局は1879年、大蔵省内に東京出張所として設けられ、1939年に現在の豊島区東池袋に移転した。

収集用として表面が鏡のように光沢が施されているプルーフ貨幣や勲章・金属工芸品の製造工程や敷地内にある造幣博物館を見学した。



続いて、大田区にある東京都下水道局森ヶ崎水再生センターを訪問した。同所は我が国最大の水再生センターで、処理面積は、東京都の区部全体面積の約1/4にあたる。バイオマスエネルギーであるメタンガスを発電設備の燃料として活用した発電設備と、処理水の放流落差を利用した水力発電について見学した。なお、発電設備の設置と運営は国内初となるPFI(公共事業に民間の資金、技術力、経営能力を取り入れる手法)によって行われているとの説明があった。

参加者からは、日頃あまり接することがない公共施設を訪問し、大変参考になったという声が多数あった。



ガソリン又は軽油を燃料とする自動車

② 改正概要

燃料タンク、配管等について、UN-R34の技術的要件に適合することを義務付けた。

③ 適用時期

新型車:2018年9月1日(※継続生産車への適用はない)

(2)番号灯(細目告示第49条)

番号灯に係る協定規則(UN-R4)の採用に伴い、以下のとおり改正した。

① 適用範囲

自動車(二輪車、側車付二輪車等除く)に備える番号灯

② 改正概要

灯光の色、明るさ等について、UN-R4の技術的要件に適合することを義務付けた。

③ 適用時期

新型車、継続生産車:2020年6月15日

【改正概要2(車両法施行規則)】

保安基準第18条改正に伴う形式的な改正

【改正概要3(装置型式指定規則)】

協定規則採用に伴い、相互認証の対象となる特定装置の追加

5.「自動車型式認証実施要領」及び「輸入自動車特別取扱制度」の一部改正(6月15日)

【改正概要】

(1)装置型式指定実施要領

① 燃料タンク、燃料タンク及び燃料タンク取付装置、衝突時の車両火災防止装置、ポールとの側面衝突時の乗員保護装置、光源、番号灯、二輪車等の制動灯、二輪車等の車幅灯、二輪車等の尾灯、二輪車等の制動灯、二輪車等の方向指示器が装置指定の対象になったことに伴う所要の整理を行った。

② 操作装置に係る協定規則(UN-R121)及び乗降口の扉の開放防止装置に係る協定規則(UN-R11)の改訂に伴う所要の整理を行った。

(2)輸入自動車特別取扱制度

ポールとの側面衝突時の乗員保護装置が装置型式指定の対象になったことに伴う所要の整理を行った。

【施行日】 2015年6月15日

6.「道路運送車両法」及び「自動車検査独立行政法人法」の一部改正(6月24日)

【改正概要】

① 車両単位での新たな相互認証制度(IWVTA)の創設

② 図柄入りナンバープレートの実施のための新たな交換制度の創設

③ ナンバープレートの視認性を阻害する行為の禁止

④ リコールに係る装置メーカーへの対応強化

⑤ 自動車検査独立行政法人及び独立行政法人交通安全環境研究所の統合及び自動車登録業務のうち確認調査事務の新法人への移管

⑥ 回送運行許可制度に関する規制の緩和

⑦ 自動車検査における民間の整備工場の業務範囲の拡大

【施行日】 2016年4月1日

7.保安基準、細目告示等の一部改正(ポスト・ポスト新長期規制)(7月1日)

【改正概要】

(1)ディーゼル重量車(軽油を燃料とするGVW3.5t超の普通自動車・小型自動車(乗車定員10人以下の乗用車を除く)をいう。)

① NOxの規制強化

② 試験サイクルの変更(JE05⇒WHDC)

③ オフサイクル時の規制導入

④ 高度な車載式故障診断装置(OBD)の義務付け

(適用時期)

① GVW3.5～7.5t

・ 新型車:2018年10月1日(OBDについては2020年10月1日)

・ 継続生産車:2019年9月1日(OBDについては2021年9月1日)

② GVW7.5t超(牽引車除く)

・ 新型車:2016年10月1日(OBDについては2018年10月1日)

・ 継続生産車:2017年9月1日(OBDについては2019年9月1日)

③ GVW7.5t超の牽引車

・ 新型車:2017年10月1日(OBDについては2019年10月1日)

・ 継続生産車:2018年9月1日(OBDについては2020年9月1日)

(2)二輪車(ガソリンを燃料とする小型二輪、軽二輪、原付二輪)

① 規制値強化

② 燃料蒸発ガス対策の実施

③ 車載式故障診断装置(OBD)の義務付け

(適用時期)

・ 新型車:2016年10月1日

・ 継続生産車:2017年9月1日

8.標準仕様のノンステップバス認定要領等の一部改正(7月2日)

【改正概要】

ノンステップバスの標準仕様について次の見直しを行ったもの。

① 反転式スロープの採用

② 車いす固定用巻き取り式ベルトの採用

③ 高齢者等優先席の前向化

④ ベビーカーを折りたたまずに乗車するためのフリースペースの確保

⑤ ノンステップバスを都市型と郊外型に分類するなど所要の改正

【施行日】 2015年7月2日

9.保安基準、細目告示等の一部改正(7月10日)

【改正概要】

搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験事業を全国展開するため、以下の関係省令等について、所用の改正等を行った。

(1)一部改正

① 道路運送車両の保安基準(第67条)

② 道路運送車両法施行規則(第54条)

③ 国土交通大臣の指定する特殊な構造を有する自動車を指定する件

④ 道路運送車両の保安基準第55条第1項、第56条第1項及び第57条第1項に規定する国土交通大臣が告示で定めるものを定める告示(第1条)

⑤ 国土交通省関係構造改革特別区域法第2条第3項に規定する告示の特例に関する措置及びその適用を受ける特定事業について定める告示(第2～第4条)

⑥ 大型特殊自動車又は小型特殊自動車に該当する自動車の判断基準について(依命通達)

(2)新設

① 道路運送車両の保安基準第67条の規定により準用する同令第55条第1項に規定する国土交通大臣が告示で定めるものを定める告示

② 公道実証実験事業に用いる搭乗型移動支援ロボットの基準緩和認定要領について

(3)廃止

① 国土交通省関係構造改革特別区域法第二条第三項に規定する省令の特例に関する措置及びその適用を受ける特定事業を定める省令

② 国土交通省関係構造改革特別区域法第2第3項に規定する省令の特例に関する措置及びその適用を受ける特定事業を定める省令第1条の規定により準用する道路運送車両の保安基準第55条第1項に規定する国土交通大臣が告示で定めるものを定める告示

③ 構造改革特別区域における「搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験事業」の取扱いについて

【施行日】 2015年7月10日

審査事務規程の一部改正

自動車検査独立行政法人

1.審査事務規程の改正(第66次)(4月17日)

【改正概要】

(1)全長、車両総重量、軸重等の限度引上げ関係

① 保安基準等の改正により、一定の要件を満たすバン型等特例8車種のセミトレーラについては長さ・車両総重量の限度、一定の要件を満たす2軸トラクタについては後軸の軸重等の限度が供に引き上げられたことになったことに伴う所要の整理を行った。

② 上記自動車の新規検査当日の審査業務を円滑・効率的に処理するため、事前書面審査制度を創設した。

(2)車体表示関係

子ども・子育て支援法等に基づく幼保連携型認定こども園等の創設に伴い、これらの施設の送迎バスについては、幼稚園、保育園等の送迎バスと同様に、車体の前面・後面・側面に「スクールバス」の表示を義務付けた。

(3)その他

審査方法の明確化、呼称変更等

【施行日】 2015年4月17日(一部は同年5月1日)

2.審査事務規程の改正(第67次)(7月30日)

【改正概要】

(1)燃料装置(4-22、4-106)

燃料タンク・配管・配置に関する性能について、協定規則R34を採用した。

(2)タクシー、バス(4-34、4-35、4-38、4-40、4-42、4-99)

① タクシーについて、上乗せ基準の廃止

② 乗車定員11人以上のバスについて、乗車定員に占める座席定員の割合に関する基準の削除

- (3)衝突時の車枠及び車体の保護性能(4-27～4-27の5)
- ① 協定規則R135(ポール側面衝突時の乗員保護)の採用
- ② 所要の整理
- (4)突入防止装置(4-30)
- 表現の明確化
- (5)乗降口(4-42)
- 協定規則R11改訂に伴う所要の整理
- (6)灯火器(4-58の2、4-68、4-69、4-76、4-79、4-81～4-81の3、4-82、4-106、別添9)
- 協定規則R4(番号灯)、協定規則R37・R99・R128(光源)、協定規則R50(二輪車等の車幅灯、番号灯、尾灯、制動灯、方向指示器)、R113(二輪車等の対称配光型前照灯)の採用
- (7)ポスト・ポスト新長期排出ガス規制(4-50～4-53、

- 4-106)
- ① ディーゼル重量車について、WHDCモード採用、OBD義務付等
- ② 二輪車について、規制値強化、OBD義務付等
- (8)その他
- 審査方法の明確化、呼称変更等
- 【施行日】 2015年7月30日(一部は同年9月1日)

■国土交通省人事異動 (2015年7月13日付)

自動車局審査・リコール課長
斧田 孝夫 氏
(前職) 自動車局技術政策課
国際業務室長



前任の西田寛氏はJASIC(自動車基準認証国際化研究センター)の所長に就任

会 員 情 報

■ 退 会	正会員	関東自動車工業(株)			
	代表者変更	飛鳥特装(株)	代表取締役社長	勝島 章文	
		(株)オーティーエス	代表取締役	岡本 敬義	
		京成自動車工業(株)	代表取締役社長	小林 広人	
		KYB(株)	代表取締役社長執行役員	中島 康輔	
		ジェイ・バス(株)	代表取締役社長	前田 啓二	
		(株)ティセンテクノ	代表取締役社長	瀧田 祐次	
		トヨタ自動車九州(株)	取締役社長	金子 達也	
		日本車輛製造(株)	取締役社長	森村 勉	
		(株)パプコ	代表取締役社長	ヨーヘン アイセレ	
		本所自動車工業(株)	代表取締役社長	細谷 康次	
		三菱ふそうトラック・バス(株)	社長／CEO	マーク リストセーヤ	
		(株)モリタ	代表取締役社長	尾形 和美	
	準会員	旭硝子(株)	代表取締役兼社長執行役員CEO	島村 琢哉	
		共和レザー(株)	代表取締役社長	中村 尚範	
		(株)小糸製作所	取締役社長	三原 弘志	
		東洋ゴム工業(株)	代表取締役社長	山本 卓司	
		日本板硝子(株)	取締役代表執行役社長兼CEO	森 重樹	
■ 本社移転					
	正会員	飛鳥車体(株)	〒252-0154 神奈川県相模原市緑区長竹295-1	電話:042-780-7881 FAX:042-780-7873	
		飛鳥特装(株)	〒252-0154 神奈川県相模原市緑区長竹295-1	電話:042-780-5591 FAX:042-780-6331	
		SGモータース(株)	〒136-0075 東京都江東区新砂1-8-10 SGHビル新砂	電話:03-3699-5670 FAX:03-3699-5671	

第44回東京モーターショー2015 車体工業会 「働くくるま」合同展示



日 時

一般公開日

10月30日(金) 10時～17時
～11月8日(日)
 ※10月30日は12時30分～17時
 ※屋外展示以外は20時まで
 ※日曜日は18時まで

13社14台の実車展示

●荷台の動きが見える車両展示

車体工業会ブースを設置

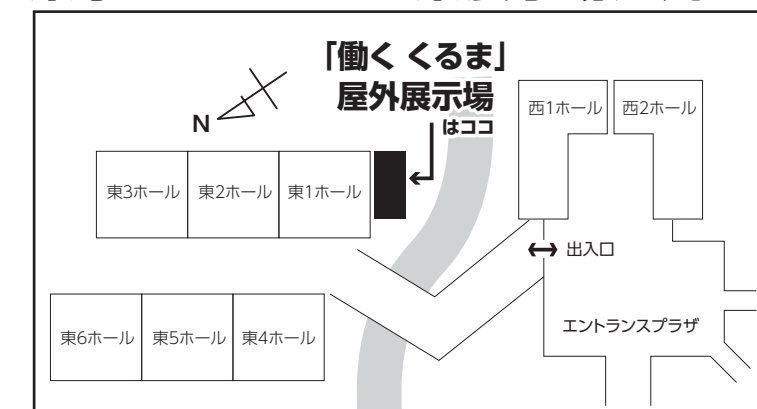
- パネル展示等で当会及び会員各社のPR
- 映像による「安全／環境への取組み活動」のPR

各種パンフレットを配布

●当会、出展社、出展車両のパンフレットを配布

会 場

東京ビッグサイト 東展示場屋外



ご来場をお待ちしております!!

マイナンバー 社会保障・税番号制度

■ 民間事業者にも制度の影響があります。

国民一人ひとりにマイナンバー(12ケタの個人番号)が割り当てられ、2016年1月から、社会保障・税・災害対策の行政手続きで使用ははじまります。それに伴い民間事業者も、税や社会保険の手続きで、従業員などのマイナンバーを取扱います。

■ マイナンバーの取扱いの注意点は?
 マイナンバーの安全な管理の為に必要なことは 具体的なガイドラインはあるの?

マイナンバーは、個人情報保護のために、その管理にあたっては、安全管理措置などが義務付けられます。マイナンバーの取扱いについて法律が定める保護措置及びその解釈について具体例を用いて解説したガイドラインがあります。



<http://www.ppc-go.jp/legal/policy/>

■ どんな準備が必要なの?

まずは、対象業務を洗い出した上で、組織としての準備が必要です。組織体制やマイナンバー利用開始までのスケジュールを検討し、対応方法を決定してください。

■ 「法人番号」とは何のこと?

法人には13ケタの法人番号が指定され、マイナンバーとは異なり、どなたでも自由に利用可能です。

マイナンバーに関するお問い合わせは **0570-20-0178** (全国共通ナビダイヤル)
 平日9時30分～17時30分(土日祝日・年末年始を除く)

※一部IP電話等で上記ダイヤルに繋がらない場合は、050-3816-9405におかけください。※ナビダイヤルは通話料がかかります。

6月		
2日	トラック部会／業務委員会	① 営業業務のルールづくりを今年度テーマに決定 ② 非会員会社の正会員化推進は今年度も継続を確認
3日	第1回チャレンジ5推進委員会	① 「2014年度委員の継承」、「企画提案コンペの結果、(株)現代文化研究所へ調査を委託すること」を決定 ② 「経営品質向上のための事例研究」と「自動車産業戦略にコミットした車体架装成長戦略」について、検討を進めていくことを合意
8日	特装部会／ミキサ車技術分科会	① 2015年度事業計画の確認 ② R58第3次改訂提案の最新情報の周知と対応方針確認
9日	中央技術委員会／ 協定規則R58第3次改訂対応WG	① 国連で合意した最新情報について周知 ② 今後の課題・検討項目の整理
10日	バス部会／技術委員会	① バス用車体規格集改訂に向けて新規項目内容確認 ② リムジンバス車いす搭載リフト試作車のユーザー評価結果の共有 ③ 自工会バス分科会へ参画し情報の共有化
11日	商用車ショー企画委員会 兼出展社会議	① 展示車両数及び配置の合意 ② LEDモニタータワーの形状合意 ③ ワークショップ運営方法について論議
12日	特装部会／脱着車分科会	① 部会総会の報告 ② 2015年度の事業計画の確認 ③ 海外調査の最終報告 ④ 解説本改訂の検討
	バン部会／技術委員会	① 標準化、共通化項目の進捗状況報告と進め方論議 ② 再帰反射材の貼付基準のJABIA規格化推進状況報告 ③ 中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化
16日	特装部会／技術委員会	① 経年品質保証に関する対応方針決定 ② 番号標の視認性に関する新法規の最新情報周知 ③ R58第3次改訂提案の最新情報の周知 ④ 第9回技術発表会テーマ募集 ⑤ 衝突被害軽減ブレーキ装着困難車両への対応状況周知
	トレーラ部会／業務委員会	① 全日本トラック協会への講演実施要請に関する内容報告 ② 静岡県トラック協会主催講演会(6/23)の内容および派遣講師決定 ③ 法改正に伴う「輸送効率」の広告(6月)出稿案決定
	バン部会／業務委員会	① 注文書にお客様確認印押印の実施状況報告と進め方論議 ② 安全注記等ラベル類の共用化検討
17日	トレーラ部会／サービス委員会	① 日整連への「点検整備記録簿」の各地域への展開要請内容の共有 ② 自動車検査法人主催の講習会資料の見直し ③ 「トレーラの日常点検」パンフレット(防水タイプ)を作成し、完成車に搭載することを合意
	バス部会／ワンマン機器委員会	① JABIA規格「バス用乗客降車合図装置」改正案作成 ② 行先表示版LEDカラー化に関する法規内容整理
	特装部会／ 粉粒体運搬車技術委員会	① 取扱説明書で使用する共通用語検討 ② 特装部会技術委員会の結果報告 ③ 工場見学会の内容周知
18日	中央技術委員会／ 改造自動車の解説本見直しWG	① 各委員から修正検討結果報告 ② 今後のスケジュール確認
	環境委員会／ 架装物リサイクル分科会	① 「環境基準適合ラベルの社会へのPR」年度計画を合意 ② ゴールドラベル取得促進のためのエコアクション21展開内容を合意 ③ 産業構造審議会への提出資料内容の合意
19日	特種部会／合同研修会	① 特種部会会員8社から22名の管理・監督者が参加 ② 「基本的なリーダーシップとコミュニケーション能力の向上」並びに「研修を通じた同業他社の同世代との関係構築」を目的に外部講師を迎えて実施
	資材部会／材料分科会(東京)	造幣局東京支局、東京都下水道局森ヶ崎水再生センター見学
22日	国際人事合同分科会(東京)	① 「グローバル化に向けた日本企業の海外派遣者の課題とソリューション」の講演会の実施 講師：マーサジャパン ② 「赴任者の選考、駐在員の手当設定方法等」の情報交換

23日	トラック部会／部会会議	① 調査研究、標準化、共通化項目の進捗状況報告 ② 中央各委員会の推進状況の部会員間共有化 ③ 本年度秋実施予定の工場見学先の決定
	環境委員会／工場環境分科会	① VOC排出量、産業廃棄物の2016年度以降の目標を論議 ② 環境をテーマにした工場見学会開催について論議、合意
24日	特種部会／業務・技術合同委員会	① 今後の見学会の目的、見学先等についての論議 ② 経年品質保証、突入防止装置当等技術課題への対応方針の決定 ③ 部会共通課題についての論議、共有
25日	資材部会／燃焼試験実態調査委員会	① 2014年度実態調査の振り返り ② 難燃性試験等実施要領細則の改正について検討
	トレーラ部会／製品安全委員会	① トレーラの「経年品質保証項目」候補を選定 ② トレーラのフレームの経年劣化(錆・割れ)に関するデータ収集状況の確認
	トラック部会／車両運搬車分科会	① 2015年度事業計画の進め方につき討議・決定 ② 日本陸送協会との研修会テーマにつき討議
26日	バス部会／塗装デザイン研究会	会員向け塗装勉強会について、講師側との意見交換(時期、場所、勉強会内容)
	環境委員会／見学会(長野)	「商用車架装物リサイクル」取組みの一環として、JTP/ELV主催によるタンクローリの解体作業を見学
	特装部会／業務委員会	① 特装部会総会の結果報告 ② 2015年度事業計画の推進状況報告 ③ 第1回中央業務委員会での報告内容決定
29日	トレーラ部会／技術委員会	① 審査の合理化を目的に「連結検討書」要望書の自動車検査独立行政法人への提出、受理について共有 ② R117タイヤ騒音の適用時期見直し及びR58突入防止第3次改正内容共有 ③ R10電波障害に関する審査部先行受託試験での合格を共有
	特装部会／サービス委員会	① メンテナンスニュースNo39(飼料運搬車)検討 ② 特装サービスマニュアルの改訂検討 ③ 補修用部品の供給年限ガイドラインの検討
30日	第1回中央技術委員会	① 経年品質保証に関する仕組みづくり検討 ② 事業計画の進捗状況確認

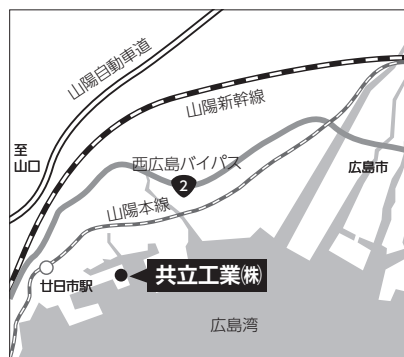
7月		
1日	商用車ショー企画委員会 兼出展社会議	① 展示車両数変更を確認及び配置合意 ② スペックボード記載内容の確認 ③ キャッチフレーズを決定 ④ WEBサイト掲載内容合意 ⑤ ワークショップ運営方法論議
2日	第1回環境委員会	① 「新環境基準適合ラベルの社会へのPR」の年度計画と予算案を決定 ② 「環境・新環境基準適合ラベル」取得推進に向けての取組み内容を決定 ③ JTP/ELV主催によるタンクローリの解体作業の見学会結果報告 ④ 産業構造審議会への提出資料内容報告 ⑤ 環境をテーマにした工場見学会開催を決定
3日	第1回中央業務委員会	① 2015年度税制改革要望案の合意 ② 2015年度経団連規制改革要望調査実施案の合意 ③ 2015年度中小企業経営支援ニーズ調査実施案の論議、合意 ④ コンプライアンス経営に関する中小企業優良事例の共有
6日	バン部会／部会会議	① 調査研究、標準化、共通化項目の進捗状況報告 ② 中央各委員会の推進状況の部会員間共有化 ③ 本年度秋実施予定の工場見学先を決定
7日	安全衛生活動	① 安全衛生活動趣旨説明 ② 活動計画案の説明、及び各社の安全への取組みの意見交換
8日	バス部会／技術委員会	① バス用車体規格集改訂に向けて新規項目内容確認 ② JABIA規格「車いすスロープ板」改正内容の確認 ③ 自工会バス分科会へ参画し情報の共有化
	特装部会／ダンプ車技術分科会	① 特装技術委員会の結果報告 ② ダンプ荷台に関する審査事務規程改正後の状況共有 ③ 定期点検の内容統一について検討
9日	特装部会／清掃車小委員会	① 特装技術委員会の結果報告 ② 巻込防止装置のJABIA規格への対応検討

7月		
14日	経年品質保証WG	① 経年品質保証活動趣旨説明 ② 各製品の経年品質事例等の共有とまとめ方論議
16日	常任委員会	① 当会が関わるショーについて論議 ② 2016年度理事会メンバー見学について論議
	第232回理事会	報告事項 1) 2015年度事業計画 本部・部会・支部別1/4期実績まとめ 2) 2015年度1/4期 収支実績まとめ 3) 2015年度チャレンジ5活動推進の取組みについて 4) 2016年度税制改正に関する要望について 5) 後部突入防止装置の協定規則R58第3次改訂提案への取組み 6) 「タンクローリ解体作業見学会並びに意見交換会」報告 7) 安全衛生活動について 8) 東京モーターショー2015『働くクルマ合同展示』について 他
	講演会(くるまプラザ会議室)	「最近の自動車技術行政について」 講師：国交省 自動車局 審査・リコール課 課長 斧田 孝夫氏 ▶P.3
17日	トラック部会／技術委員会	① 調査研究、標準化、共通化項目の進捗状況報告 ② 中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化 ③ 資材委員会に協力を仰ぐ項目を決定
21日	中央技術委員会／ 協定規則R58第3次改訂対応WG	① 検討結果の報告と対応方針の確認 ② 今後のスケジュールの確認
22日	トレーラ部会／サービス委員会	① 日整連への「点検整備記録簿」展開要請の仮受諾を報告 ② 自動車検査法人主催の講習会(7/8)実施結果の振り返り ③ サービスニュース見直し及び「点検整備の必要性が周知できる仕組の整備」について論議
23日	バス部会／ ワンマン機器委員会	① JABIA規格「バス用乗客降車合図装置」改正案をもとに資材部会機器メーカーと内容審議 ② 行先表示版LEDカラー化の法内容整理したものをもとに資材部会機器メーカーと内容審議
	特装部会／塵芥車業務分科会	消防署向け塵芥車の講習会の対応検討
27日	トレーラ部会／技術委員会	① R10電波障害に関する審査部先行受託試験結果を共有 ② 「法改正概要を盛り込んだガイドブック」改訂(東京都トラック協会依頼)内容の合意 ③ R34燃料タンク火災防止WG検討内容の共有
28日	特装部会／ 粉粒体運搬車技術分科会(愛知)	工場見学会の実施(極東開発工業(株)名古屋工場) ▶P.7
29日	トレーラ部会／業務委員会	① 全日本トラック協会への講演実施要請の承諾並びに、各地域トラック協会での6件の開催要請を共有 ② 静岡県トラック協会での講演(6/23)の結果を共有 ③ 全日本トラック協会のトレーラ使用拡大活動のための「トレーラハンドブック作成WG」への委員派遣を決定
	トラック部会／ 技術委員会シーリングWG	① 資材部会と荷台のシーリング試験方法につき意見交換 ② 使用部位別のシール材料調査も追加実施決定
30日	労政合同分科会	① 「マイナンバー制度の対応状況」「社内マイナンバー制度の運用状況」についての情報交換 ② 「グローバルHRのトレンドから」講演会の実施 講師:マーサジャパン ▶P.6
	自動車産業労政合同会議(東京)	① 「労働者派遣法会案の留意点について」講演会の実施 講師:木下潮音氏(弁護士) ② 三工業会共同事業計画の進捗状況、2016年度年間カレンダーに関する要望書の要請等事業報告の実施 ▶P.6
31日	トレーラ部会／製品安全委員会	① トレーラの「経年品質保証項目」を経年品質WGでの内容を踏まえてリスクランク等を追加することを決定 ② 日整連主催「整備主任者技術研修講習会(毎年4月)」での講演依頼を受諾

8月		
3日	特装部会／ サービス委員会	① メンテナンスニュースNo.39(飼料運搬車)検討 ② 特装サービスマニュアルの改訂検討 ③ 補修用部品の供給年限ガイドラインの検討
4日	自動車産業労務担当役員懇談会(東京)	「インダストリー4.0が自動車産業にもたらす衝撃」講演会の実施 講師：(株)ローランドベルガー 長島聡氏 ▶P.6
5日	商用車ショー企画委員会	① 当会PR方法及び内容の確認(合同パンフレット、パネル展示、WEBサイト) ② 合同パンフレット表紙デザインの確認 ③ ワークショップ運営ルール、工作品の確認
	トラック部会／ 技術委員会UボルトWG	① Uボルトの共通化に向けて資材部会と意見交換 ② トラック部会要望案に沿って資材部会に検討依頼
6日	中央技術委員会／ 改造自動車等解説本見直しWG	① 検討結果の報告 ② 今後のスケジュール確認
7日	トラック部会／業務委員会	① 営業業務のルール原案につき討議 ② 資材・部品の購入価格アップ調査結果につき意見交換
	中央技術委員会／ ナンバープレートの視認性対応WG	第1回ナンバープレート表示の基準検討会結果報告と今後の対応検討
19日	バス部会／技術委員会	① バス用車体規格集改訂に向けて修正項目内容確認 ② バス用車体規格集改訂に関する日本バス協会との打合せ資料事前確認
20日	中央技術委員会／ テールゲートリフタ技術委員会	① R58(突入防止装置)改訂提案の最新情報共有 ② 番号標の表示に関する新基準の最新情報共有
21日	バス部会／ワンマン機器委員会	① JABIA規格「バス用乗客降車合図装置」改正案をもとに資材部会機器メーカーと内容審議及び合意 ② 「LED車外照射灯」の仕様の洗い出し
	トラック部会／部会会議及び工場見学会 (北海道)	19社25名が参加し開催 ① 部会会議:事業計画の進捗状況報告と進め方論議 ② 工場見学:北海道車体(株)パン、平ボデートラック、トレーラの製造工程 ▶P.7
24日	安全衛生活動	① 各社の安全取組みの共有化 ② 会員への情報提供内容の確認
	トレーラ部会／製品安全委員会	① トレーラの「タイヤ脱落事故(2014年度)」の内容を共有 ② 日整連主催の「整備主任者技術研修講習会(毎年4月)」用講習会教本の原稿提出(10月)を確認
25日	第2回チャレンジ5推進委員会	① 高経営品質の企業事例に関する文献調査結果について論議 ② 高経営品質の企業への訪問ヒアリングについて論議
26日	トレーラ部会／技術委員会	① R10電波障害試験の費用分担について合意 ② 国交省道路局の「特例通行許可審査システム障害」の状況について共有
	特装部会／塵芥車技術分科会	① 「昭和62年安全基準」の見直し案件経過報告 ② 塵芥車の製作基準のJABIA規格化検討 ③ 消防署向け講習テキストの見直し検討
27日	中央技術委員会／ ナンバープレートの視認性対応WG	第2回ナンバープレート表示の基準検討会結果報告と今後の対応検討
28日	第2回広報委員会／ 創立70周年史作成WG	① 2015年度広報活動事業計画の進捗状況確認 ② 車体NEWS秋号記事の校正と冬号企画 ③ 創立70周年史の方向性論議
31日	バン部会／技術委員会	① 標準化、共通化項目の進捗状況報告と論議 ② 中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化 ③ フェリー等外部電源使用時の漏電火災対応について討議
	トレーラ部会／サービス委員会	① 日整連への「点検整備記録簿」展開要請に関する正式依頼書の内容合意 ② サービスニュース見直し項目を決定 ③ 全日本トラック協会のラジオ放送無料活用に関するデモの実施と確認
	トレーラ部会／業務委員会	① 各地域トラック協会からの講演派遣要請(9件)への派遣講師の決定と、講演内容の共有により委員持ち回りでの実施を合意 ② 法改正に伴う「輸送効率」の広告(10月)出稿案決定 ③ 関東地方整備局要請による「45フィートコンテナ」についての意見交換会(8/28)内容の共有



瀬川 巖 代表取締役



DATA

- 本社 〒738-0021
広島県廿日市市木材港北13番1号
TEL 0829-31-2255
FAX 0829-31-0789
- 資本金 1,000万円
- 従業員 46名
- 事業所規模(本社工場)
敷地 6,168㎡
工場 2,029㎡
- 車体工業会加入
1996年(トラック部会)



共立工業(株)

未来のために、若い従業員にやる気と アイデアが生まれるシステム作り。

たった2名で軒下の作業場から始めた共立工業(株)は、広島港に面した廿日市に広大な工場を持つまでに成長した。世代交代を控えた今、現代に生きる企業として、若い世代が働きやすい環境や制度作りに力を入れている。

取材／車体工業会事務局次長 兼 業務部長 色摩 隆一

● 特徴・沿革

共立工業(株)は1978年、架装メーカーに勤めていた瀬川社長が独立し、冷凍・冷蔵車の製造会社として広島市(佐伯区)五日市にて創業を開始した。当初は自前の工場を持つことができず、知人の工場の軒先を借りて作業を行っていたという。

わずか2名で始めた工場であったが、「かゆい所に手が届く“こだわり”のモノづくり」による品質の良さが評判を呼び、人から人への紹介で仕事は順調に増えていった。

「誠心誠意、お客様に向き合えば、クレームという言葉は存在しない」とする瀬川社長の下には、モノづくりに真剣に取り組む優秀なスタッフが自然と集まってきた。納期を守るため遅くまでの作業が続いた日々すら、仲間たちとともにモノを作る喜びがあれば、苦労には思えなかったという。

その後、五日市に自社工場を構えて、仕事の量とともに従業員もさらに増えていく。20名以上に増えた

2007年、広島港廿日市地区造成地に現在の新工場を建設、移転した。工場が広く新しくなったことで仕事の幅も更に広がり、従業員数も倍増した。

創業から37年、軒下の作業場から始まった工場は、従業員とともに着実な成長を続けてきた。働く世代の年代が広がっている今、瀬川社長は企業としての過渡期に差しかっていることを強く実感している。

未来への事業継続に向けて、技術・技能を次世代に継承していくと同時に、会社としての組織の構築、意思伝達の方法、従業員が働きやすい職場作りなど、環境面での構築も進めている。



広い工場には平成生まれの従業員も多い

● 製品

― 御社の業務の特徴について お聞かせください。

当社は広島県の他に、中国、四国、九州地区といった地元の顧客を中心に、事業を展開しています。

創業以来、モノづくりにこだわり、お客様が満足する質の高い製品を自分たちで作りに続けてきたことが、お客様の信頼を得てきたことと自負しています。ステンレス加工を中心に小さな物から大きな物まで、自社で製作することができます。

蓄積してきた技術・技能を大事にし、実用新案の取得など研究開発にも積極的に取り組んでいます。



タイヤサービスカー



枝肉を運搬するルーフスライド式冷凍車



実用新案登録証

精巧なミニチュアを作るほど、瀬川社長のモノづくりへのこだわりは強い



実用新案を取得した昇降式の車載表示板



大型車が収まる塗装専用室を2室備える

● 人

― 御社の特徴は？

40名を超える組織となり、今まで会社の成長に長らく貢献していただいたスタッフから、平成生まれの若いスタッフへと、まさに世代交代の時期に差しかかっています。

現代に生きる企業として、従業員全体の意識統一ができるように、コンプライアンス遵守を含め、伝達事項が的確に伝わる朝礼や会議、掲示を定期的に行っています。そうした

中で若い人が働きやすく、活気が生まれ、やる気やアイデアが出てくるような業務および管理システムや制度作りに注力しています。



朝礼風景

― どのような車体を手がけているのでしょうか？

大型車9台が工場内で作業ができます。主に平ボデー車、バン・ウイング車、冷凍車の架装・艤装や修理を行っています。その他にも、道路維持作業車、音声継車、タイヤサービスカー、移動販売車、給食車、移動図書館車、家畜運搬車など、数多くの種類の架装を手がけています。

― 御社の経営方針は？

社訓は「誠心誠意」です。お客様のために心を込めた仕事をする中で、お客様の満足度の向上を深く追求することができます。そのために高い技術・技能を守り続け、「高品質」なサービスを提供することを常に心がけています。これからも感動を提供できるよう、サービスの改善に取り組み、長期安定的な成長と発展を目指していきます。



従業員全員が休憩できる広い休憩室

― 次世代の教育について

60歳以上のベテランと平成生まれの若手とでペアリングによる技術指導を中心に技術の継承を行っています。若手には、リピート作業ではなく、一工夫を加えることや、実用新案の取得を奨励することで、モノづくりの楽しさを肌で感じてもらうことが重要だと思っています。

若い世代が楽しく働ける環境作りを通して、共立工業のモノづくりを正しく伝えることを大切にしています。

少量・多品種・短納期に自信あり

平本工業(株)

平本工業(株)は、60年以上の歴史を持つ老舗の自動車部品の製造・加工・販売会社であり、今年50周年を迎える資材部会の発足時からの会員企業である。

1952年設立の平本商会を母体とし、当時は名古屋市熱田区にあり、金物の神様として有名な金山神社の近くにて、鋳物を製造する設備を持つ本社工場を構えていた。

自社で製造する鋳物以外に、顧客の注文があれば、パネ部品やゴム・樹脂製品などの製造工場を探し出して、製品を作り上げて顧客の要望に応えてきた。

1960年、現在の愛知県岩倉市に本社工場を移転し、プレス加工、溶接加工、組付作業等を開始。岩倉近隣でも多くの協力工場を開拓して、取扱い製品を増やしていった。

平ボデートラックのあおりや乗用車のドアに使われる蝶番(ヒンジ)、バスのハンドレール、自動車の牽引フックなど、細かい部品を数多く取り扱っている。創業時から少量多品種を得意とし、部品の製造・加工・販売に特化してきた。

現在、取引関係がある協力工場は200社以上となっている。顧客のニーズに応えていく努力



自社でプレス加工や溶接を行い、製品を仕上げていく

によって、協力工場と製品が幅広く増えていき、トラック・乗用車をはじめ、バスや鉄道車両にも多くの部品を供給している。

少量・多品種・短納期

同じように見えても微妙に異なる多種類の部品を少量ずつ扱う「誰もやりたがらない仕事」を、「他ではできない仕事」とするプラス志向の発想で柔軟に対応してきた。



伊藤 延行
専務取締役

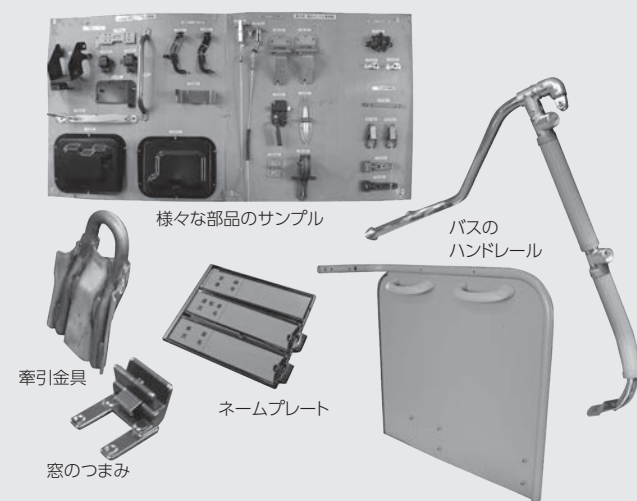
野垣 稔之
総務課 総務G 主任

こうして積み重ねられた地道な努力と実績で、多くの顧客から「平本工業に頼めば必ず何とかしてくれる」という信頼を勝ち得ることに成功している。

協力会社とのコミュニケーション

平本工業(株)では、様々な注文に対応していくために、200社以上の協力工場のうち、常に30~40社と連携している。例えば、塗装はA社、メッキはB社、磨きであればC社と、それぞれの工場の得意分野を見極めて、タイムリーに仕事を振り分けていかなければならない。

平本工業(株)が扱う製品の一部



このような生産管理をシステム化することは、技術・コストの両面において大変難しい。かつて大幅なシステム化の試みも検討されたが、臨機応変さが求められる複雑な生産管理をシステム化することは現実的ではなかった。

協力会社と人間同士のコミュニケーションがあり、長きに亘る信頼関係を培ってきたからこそ、相手の現場の状況をお互いに熟知し、仕様の的確な伝達や、納期の調整を円滑に行い、顧客の注文に対応することができるのである。

スムーズに仕事を進めるために、人間関係によるアナログ的な強味を持っている点が、平本工業(株)の顧客対応力であり、大きな信頼へとつながっている。

平本工業(株) 代表取締役社長 古山 勝彦

協力会社が広くあり、得意先からのコスト面も柔軟に対応できる体制を整えています。

【本社工場】〒482-0012 愛知県岩倉市稲荷町半田655
Tel : 0587-66-3131

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

トラックユーザーと同じ視点で提案

(株)エクシング

(株)エクシングは1960年創業、大阪本社を拠点に東北から九州までの配送ネットワークを持ち、約300台のトラックを有する物流企業である。多角的に事業を展開し、建設機材レンタルや危険物倉庫など、トラックに関連した様々な業務を行っている。1985年に当時発売されたばかりのマーキングフィルムの提供をいち早く開始した。

ユーザー目線と全国ネットワーク

マーキングフィルムは、車体を鮮やかな色で彩り、会社名やロゴ等を人々に効果的に宣伝できるので、物流業界や営業車には今や欠かせない資材となっている。

(株)エクシングでは、自社の持つ配送ネットワークを生かして、全国の7センターを拠点にマーキングフィルム事業を展開している。自らも300台を保有するトラックユーザーであるので、顧客と同じ視点に立つことができ、顧客の立場になって、様々な実績を紹介することができる。

また、各地にセンターを持つことによる柔軟な対応も好評であり、現在では、小型から大型まで合わせると年間1万台以上にフィルム施工を行っている。



出力されたフィルムを手早くカット

今回取材した横浜センターは、女性スタッフを中心にフィルムのデザインと製作が行われ、他のセンターからのデザイン依頼も多いという。PC上でデザインされた型が、プロッターで各色のフィルム上に切り抜かれる。カッターで余分な部分を取り除き、各色をつなげると完成となる。



廣瀬 史子
製作チーム

須藤 亜美
製作チーム

町田 潤治
取締役
ファンタックサービス
東部ブロック長

草柳 あゆみ
製作チーム

立体物にイメージを再現する

実際のボデー

には波板が使用されていたり、継ぎ目部分に微妙なカーブが存在したりと平面

で見るとでは大きく異なっている。そのため画面上で作成したデザインを、そのまま出力して使用するとズレが生じてしまうのだ。

この誤差が最小限になるように、実物の凹凸を計算して、出力しなくてはならない。また色と色の境界線では隙間が発生しないように、わずかに重ね合うようにするなど、デザイン・製作の段階において、施工現場で作業がしやすいように工夫されたフィルムの出力が大事になる。

大きなフィルムを貼り合わせていく施工技術を身につけるには、相応の経験が必要となる。経験の浅いスタッフが急いで作業すると、シワやヨレが発生して、フィルムから出力してやり直さなければならない。

また、施工は顧客先に出向いての作業も多く、環境や作業時間にも制限がある。特に年末から年度末にかけての繁忙期には、各スタッフがいくつもの案件を抱えるため、それぞれの技術レベルを考えた采配にも苦心するという。

現在、(株)エクシングでは、物流部門のドライバーに好評の「高輝度反射フィルム」にも力を入れている。安全性にも効果の高い製品を広め、車社会の安全向上にマーキングフィルムで貢献していく。



側面に波板を使用している



凹凸に合わせて作られ、イメージ通りに貼られると美しい仕上がりになる



高輝度反射フィルム

(株)エクシング 代表取締役社長 山部 博政

マーキングフィルムの企画・デザイン・製作・施工まで一貫したサービスを提供しております。

【ファンタックサービス本部】〒661-0964 兵庫県尼崎市神崎町12-39
Tel : 06-6499-7008 <http://www.exing.co.jp/>

知りたい ロボットの進化と普及

そこが 第26回

6月30日に『日本再興戦略』改訂2015―未来への投資・生産性革命―が閣議決定された。その中の主要施策3例のひとつ『改革2020』（成長戦略を加速する官民プロジェクト）の実行」の中に「先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現」があげられている。国内ではロボット技術の進展とともに高校生、更には全国レベルでのロボット競技大会も行われている。こうした機会にあらためてロボットの進化と普及について紹介する。

Q1 ロボットとはどういうもの？

ロボット(robot)という言葉は、1920年にチェコスロバキア(当時)の小説家が発表した戯曲において初めて用いられた。この作品に登場するロボットは金属製の機械ではなく、化学的合成で似せて作った、人間とは異なる組成の肉体と人間そっくりの外見を持つものであった。ロボットが何を指すのか、という明確な定義はないが、戯曲ではロボットが「人の代わりに作業をさせることを目的に」、「人(の姿と自律行動)を模して」造られた。

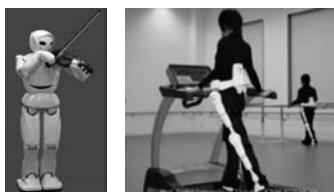
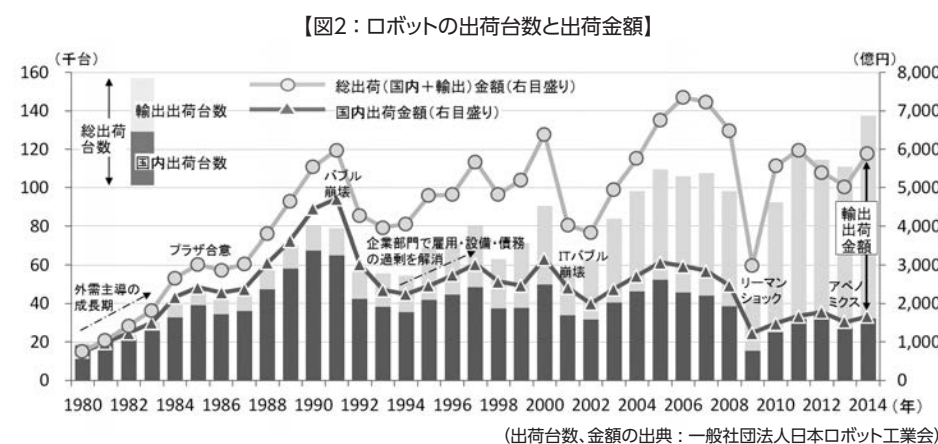
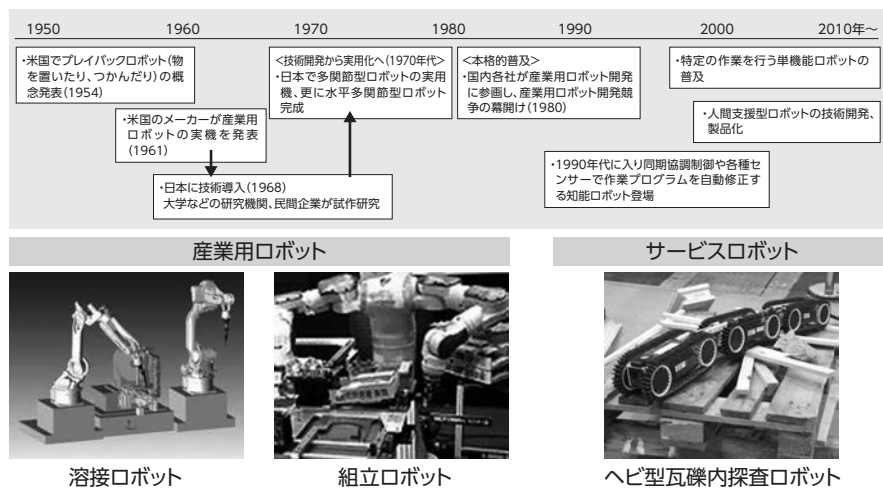
日本工業規格(JIS)では「JIS B 0134」(1998年)により「産業用ロボット」の定義を、「自動制御によるマニピュレーション(操作、操縦)機能又は移動機能をもち、各種の作業をプログラムによって実行できる、産業に使用される機械」と規定している。なお、広義では、日本古来のいわゆる「からくり人形」【図1】もロボットと考えることもできる。



【図1：茶運び人形】

Q2 ロボットとはどのように開発され、使われてきたの？

アニメの世界に登場するロボットも現実味を帯びてきたが、これまで活躍してきたのは産業用ロボットである。それらの多くは自動車産業や電気電子産業の製造現場を中心に「ひと」が行っていた単純繰り返し作業や苦渋作業をロボットに置き換えるということで進められてきた。2000年以降、人間支援型のサービスロボットの技術開発、製品化が進んでいる。



(出典：経産省、各企業及び団体ホームページによる)

Q3 今後ロボットはどんなになっていくの？

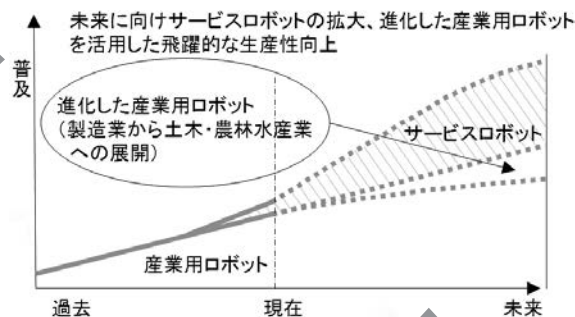
<産業用ロボット>

- 1980年代から本格普及してきた産業用ロボットは技術の進展を織込みながら産業の発展に大きく寄与
- 産業用ロボットの役割は人口減少やそれに伴う労働力不足を補完するうえで、今後も進化を継続

<新ロボット戦略の3本柱(経産省)>

- ロボット創出力の抜本強化
 - ロボットの活用・普及(ロボットショーケース化)
 - 世界を見据えたロボット革命の展開・発展
- 『「ロボット大国」日本』を維持

【図3：ロボットの動向】



【図4：先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現】



- ・世界の追い上げ
- ・国際標準化への対応
- ・他産業の参入
- ・新たな生産プロセスの開発、サプライチェーン全体の最適化
- ・ユーザー領域の拡大

(出典：経産省)

<環境変化>

- 日本国内の少子高齢化、人口減少
- グローバルな産業変革

IIC:Industrial Internet Consortium

GEをはじめ、シスコ、IBM、インテル等、60社以上によるコンソーシアム。計測機器を搭載した産業機器からデータを収集・解析して保守保全や設計開発等に活用するシステムについてベストプラクティスの共有や必要な標準化について検討

Industry4.0

ドイツ政府が2011年11月に取りまとめた「High-Tech Strategy 2020 Action Plan(高度技術戦略の2020年に向けた実行計画)」における戦略的施策の一つ。BMW、シーメンス等のドイツ主要企業57社により協議会を形成。ロボットとITの融合により、開発・製造・流通プロセスの全体最適化を目指す

これまで日本では産業用ロボットが着実に普及し、ロボットの活用が「ひと」とのコミュニケーションの世界に入ってきている。中国では経済発展に伴う人件費増、更には品質向上への対応で産業用ロボットが大量に導入されている。また、ISO規格や自動車業界の法規制同様、グローバルなルールの制定は欧米主導で進められようとしている。ITの進展はこれまでの動きを更に加速させロボットの概念を変えていく。これまで産業用ロボットの市場が法人中心であったが、今後進展していくサービスロボットは法人はもとより個人も市場となり、現在の乗用車、家電製品、パソコンと同等の存在となっていくと思われる。

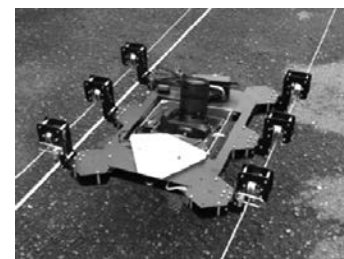
Q4 「働くクルマ」とロボットとの関係は？

無人飛行型ロボットに代表されるように、ロボットの活躍の場は際限なく広がっており、インフラ点検ロボットの進展は橋梁点検車等への影響が考えられる。

物流では、ロボットが輸送中の車両内で付加価値を付けたり、配達先に到着後はロボットがお客様に商品をお渡しする社会になるかもしれない。そうしたサービスロボットを活用した架装が求められる時代がすぐそこまで来ている。



橋梁点検車による点検



インフラ点検ロボットの例



第10回：災害支援時に活躍する車両

DMAT Car 兼 Doctor Car

資料提供：トヨタテクノクラフト(株)

DMATとは「災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team」の頭文字をとった略称で‘ディーマット’と呼ばれる。災害急性期に活動できる機動性を持った専門的なトレーニングを受けた医療チームである。

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災での教訓から、医師が災害現場で医療を行う必要性が認識されるようになり、“一人でも多くの命を助けよう”と厚生労働省により、2005年4月に発足した。

通常は、医師、看護師、業務調整員の概ね5～6人で

第10回目として災害支援時に活躍する車両として特種部会の会員が製造している「DMAT Car」と「移動美容室車」の2車種を紹介する。

1チームが編成されている。

2011年3月の東日本大震災の経験から、DMAT Carのニーズが高まったが、車両の標準仕様は定まっていなかったため、車両製作に当たっては、実際に東日本大震災時に災害救助活動に出動した医師らのヒアリングを基に検討された。

キーコンセプトとしては、大災害時だけの特別車両でなく、平時もDoctor Carとして利用できるようにするため、医師の活動空間を広く確保するとともに、搬送設備と一通りの医療機器が装備可能なものとしている。



【DMAT Car車の特徴】

ベースボディは、災害時に求められる物資搬送性と機動性、Doctor Carとしての室内作業性を両立できるよう、高規格救急車とした。

なお、患者の搬送設備を有するため、救急車として車両登録している。

DMAT Carとしての特別装備は、DMAT活動の要である災害現場における情報の収集／発信に重点を置き、自動追尾型の衛星電話、パソコン作業台、情報記入用の大型ホワイトボード、TVアンテナ、サイドタープ等となっている。

ベース車	トヨタ トヨタ救急車(ハイメディック)
型 式	TRH226S-QFPDK-H
諸 元	全長5,650mm × 全幅1,895mm × 全高2,660mm(装備品含む)
定 員	8名または7名(仕様によって異なる)



自動追尾型の衛星電話のアンテナ



サイドタープを展開した状態



医療用機器の配置



大型ホワイトボード



パソコン作業台

【DMAT Carの活動】

2013年3月、東京都向けに15台が納車されたことをきっかけに、現在各都道府県に導入が進められている。

幸いなことに、東日本大震災以後、大規模災害は発生していないため、現時点では防災訓練で見かけることが多いが、今後、DMATチームによる災害現場等での救助活動への寄与が期待されている。

移動美容室車

資料提供：(株)オートワークス京都

移動美容室車は、従来から、老人ホーム等を訪問しての理美容サービスの提供、そして、介護が必要な高齢者などを対象に個別訪問しての理美容サービスの提供のために、使用されてきた。

今回は、2011年3月に発生した東日本大震災後に、

被災した方々に美容師のサービスを提供するだけでなく、働く場を失った美容師の支援も目的のひとつとしてスタートした復興支援プロジェクト「美容師のちから」(運営：日本ロレアル(株) 協力：日産自動車(株)・タカラベルモント(株))に使用された車両を紹介する。

【移動美容室車の特徴】

被災地でも移動がしやすいマイクロバスに、シャンプー台とセット面を設置したことで、シャンプーからセットまでの施術メニューが可能になった。バス内の設備は、シャンプーブース1台、セット面2台で、2台のセット面では同時に2人の方へのヘアカットが可能となり、最大で1日に約60人まで対応することが出来る。

ベース車	日産 シビリアン
型 式	ABG-DHW41
諸 元	全長6,990mm × 全幅2,065mm × 全高2,910mm

なお、製作にあたっては、マイクロバスという限られた空間をいかに広く見せることができるか、が一番の課題であった。

このため、設備類のレイアウトの工夫と鏡を利用して広く見せることで解決した。また、室内は洗練された雰囲気であるとともに、美容師の方が働きやすい機能空間とした。

2011年6月から移動美容室車の製作を開始。外観の改造に続き、室内の架装に移ったが、限られた室内空間の中

でシャンプー台と設置イスとの設定角度を何度も調整するなど、最適なものにする工夫がされた。

そして、作業に必要なスペースと動線を両立させた機能空間を実現出来た。



鏡の効果で広く感じる室内



テーマカラーのオレンジで統一された洗練された室内



美容師の導線にも配慮した機能空間

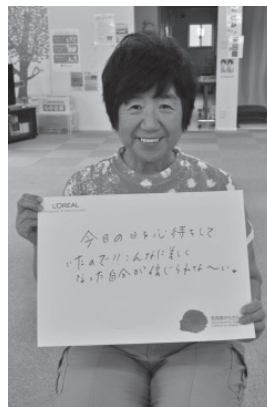
【東日本大震災被災地での支援活動】

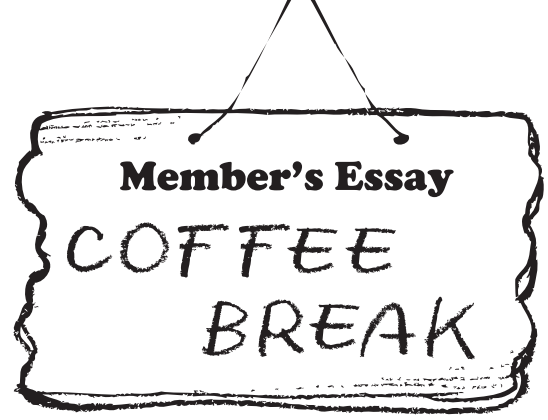
復興支援プロジェクトとして、2011年11月より岩手県を皮切りに東北地方の被災地巡回を行ってきた。

そして、2015年3月の活動終了までに、岩手県内、宮城県内、福島県内の計15市町村で、美容師の方157人、ボランティアの方238名の協力を得て、述べ約1,000人の被災者の方に美容師のサービスを提供した。

この間、被災地の方々からたくさんの笑顔と多くの感謝の言葉が寄せられ、被災された方の心の支えの一助として活動することが出来た。

活動を終えて、本車両は「日本自動車博物館(石川県)」に、展示保存されている。





私の球技歴、ボウリング (Bowling)

(株)協伸製作所 湘南工場 生産部 大川 繁行

いきなりですが、みなさん「○○ボーリング」を目にしたことありませんか?新聞、雑誌、広告等いろんな場所で目にされた方いらっしゃると思いますが、いつも思うのが、「穴掘り、掘削だー(boring)」と思うことです。今は取り壊されてありませんが、自分の住んでいる茅ヶ崎の、とある遊戯施設にボウリング場がありまして、ドデカイ看板が「○○ボーリング場」と掲げられており毎日駐車場から見るたび頭をひねっておりました。

まあ名前のことはさておき、私のボウリング歴と現在についてお話ししたいと思います。

さかのぼること40数年前、自分の父親が勤める会社で毎月ボウリング大会を行っており、最初は観戦のみでした。小学校高学年になり、たまたま参加人数が足りず始めたのがきっかけです。何回か参加するうちハンデキャップ付きで優勝したのを今でも忘れません。

当時はボウリング全盛期時代で、みなさんも一度は耳にされたことがあるスター・プレーヤー「須田開代子さん・中山律子さん」らが活躍されていた1970年前後、週末ともなれば1ゲーム100円の頃で一時間待ちは当たり前だったのを覚えています。

月日が過ぎ私も田舎の新潟から神奈川へと就職で移り住み、諸先輩からボウリングの基礎を学びそんななかいつしか「週一ボーラー」になっていました。

会社ではボウリング部も立ち上げ月一度は大会を開催しておりました。成績はというと、確か246ピンが最高得点だったと記憶します。今でも練習する度、いつかは「パー



投球する筆者

フェクト300ピン」思いながらマイボールを投げるのですが、第一フレーム第一投目で「夢破れたリー!」となった時

は、正直へこみますね。

皆さんも経験ありませんか?ボウリングってメンタルなスポーツであることは間違いありませんが、一番庶民的スポーツであることも間違いのないと思います。

全盛期に比べればボウリング場の数も減ってはいますが、オリンピック競技参加種目にも選ばれる可能性があります。

まだ一度もボールに触ったことのない方も気軽にできるスポーツですので、是非一度お近くのボウリング場に足を運んで見ることをお勧めいたします。

最後に一言、最低限のマナーとして投球レーンに立つ場合「右側優先です」。

今の時代ネットがあるので一度確認してみてください。



マイボールとともに

多趣味な私の最高の相棒

(株)トイファクトリーインターナショナル 横浜店 千葉 吉衛門

自分で言うのも何ですが、非常に多趣味な私。釣り、カヤック、MTB、オートバイ、キャンプ、ラジコン…等々。気になった外遊びに対してはまず「やってみたい」と思っています。そんな私の最高の相棒は弊社が製造販売しているキャンピングカーTOY'SBOX540です。欲張りな性格の私はフィールドに出かける際、多種多様な遊びのギアを持ち出します。この時に大活躍するのがTOY'SBOX540です。釣り竿などの車載はもちろん、ルーフにカヤック、ラゲッジスペースにフルサイズのMTBとHONDAモンキーを積み込み、さらにサブバッテリー駆動の冷蔵庫も一緒にフィールドへ出発します。

沢山積むだけなら普通の1BOXでも…と思ってしまうですが、TOY'SBOX540はこれだけのギアを車載しながら、熟睡できるベッドスペースが確保できるということも大変気に入っている部分です。遊びに出かける際のスケジュールはだいたい同じパターンで、仕事が終わるとシャワーだけ済ませて目的地へ向けて出発します。お気に入りの釣りのポイントやカヤックの出艇場所まで移動してから車中泊で朝を迎えます。魚の活性が高い、朝日が昇る直前の薄暗い時間帯から釣りを始めることが出来ます。狙った時間ギリギリまで熟睡できるのはキャンピングカーならではの遊び方です。また、広いベッドは家族で出かける際に

も大いに活躍します。遠方へ出かける際、夜通し走ることもありますが妻と子供はリアベットでぐっすり…なんてこともありました。

最近横浜から福井県敦賀市まで釣り旅に行ってきました。仕事が終わってから約600kmの長旅です。長旅と言ってもそこはキャンピングカーですから少しでも眠いと感じたらすぐに仮眠することができます。いつでも寝れるというのは身体的にも精神的にも安心して運転することができます。ベース車のハイエースのボデーを一切加工しないためボデー剛性も良く、運転が非常に楽なところもお気に入りの一つです。

いつかこの車で北海道から九州まで、その土地の、その季節の魚を釣りに旅に出るのが私の夢です。距離をあまり気にせず、時間も有効活用できる。欲張りな私の夢を叶えてくれる最高の相棒です。



釣り上げた大物のシラと筆者

トヨタライトバス レストアへのこだわり

トヨタ車体(株) 製品企画センター 新地 昭浩

当社の生産車であるトヨタコースターの前身にあたるトヨタライトバスの生誕50周年を記念して、初代ライトバスをレストア(復元)しようと有志が立ち上がりました(ライトバスの車名は次モデルでコースターに改称)。このレストアに企画進行役の1人として携わるようになった私は、最初のうちは正直特別興味もなかったのですが仕事の延長でしかありませんでした。しかし有志メンバーと修復作業を進めていくうちに段々とレストアの楽しさが分かり興味が湧いてきました。そうすると今度は部品へのこだわりが出てきました。中でもこだわりにこだわったのがボデー締結リベット構造とボデーやシートの色の再現です。ボデーリベットは当時金属同士の締結のために使われていましたが、こ



後列一番右手が筆者

のレストアの原形車は最終型のライトバスのためその殆どがスポット溶接構造に変わっていました。初期型に復元するためには全面リベット化は絶対必要だと思い、現車の一部にわずかに残っていたリベットを調べました。私はその物を測り図面を書いて製作してくれそうなメーカーさんを探し出し発注しました。なんとか同等の物ができあがりボデー外板面に約2千の穴をあけリベットを打込みました。ボデーの色は塗料メーカーさんに無理を言い、当時のパンフレットを元に何度も調色してもらい再現させました。

またシート表皮の色も同様に何度も表皮サンプルを取り寄せては比較して納得のいく色を探し出すことができました。

読者の皆様にはカラーで見て頂けないのが非常に残念ですが、隅々までこだわって復元したライトバスは直線的なラインと美しい曲面が見事に調和したスタイルと、ティファニーブルーの様な可憐なボデーカラーやモダンで上品な艶のあるまっ赤なシートが見事に復現できたと思います。また同様にエンジン、シャシ部品もレストアし、走行できるようにしました。この活動を通してメンバー全員が先人の知恵を改めて学ぶことができ、こだわりを持って復元してよかったと思います。



ボデー外板面に打込まれたリベット



上品な艶のあるシート

名古屋ボデー(株)
製造部 仕上班
ふくもと りな
福本 里奈さん



日本一のボデー屋になる
という目標に向かって
頑張っていきます!

創意工夫を凝らし
製作したボデーには
特に力が入ります!

関東工業(株)
車体営業課
しゅうとう ともひろ
周東 知弘さん



Q1 どんなお仕事ですか。

トラックボデー架装の最終作業工程である仕上班で配線の仕事をしています。主にキャブの中やマーカーなどの電気配線業務に携わっています。

Q2 仕事で楽しいときは

外出した時などに自分が仕事で携わったトラックを街中で見かけると大変嬉しいです。お客様が満足してトラックに乗車していただいていると聞いたときに自分の仕事にやりがいと楽しさを感じます。

Q3 仕事でつらいこと

仕事を始めた当初、重い材料などがなかなか持てず大変苦労しました。班の皆さんにもご迷惑お掛けしましたが、現在では努力の甲斐あって、ある程度の重さの物は持てるようになりました。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

弊社の場合、作業工程はライン作業ではなく、全て手作業で行っています。班のメンバーと協力しながら仕事を進めていき、最後に完成したトラックを見た時は、このトラックの製造に自分も関わったんだと感慨深いものを感じました。

Q5 御社のPRをしてください!

トラックのボデーを1台1台オーダーメイドで手作りしている会社です。創業以来54年間ずっと大切にしてきたことは「できません」と決して言わないこと。この言葉を大切に、何かあったら「名古屋ボデー」と言ってもらえるように日々努力しています。「日本一のボデー屋になる」という目標に向かって頑張っていきますので、これからもよろしくをお願いします。

Q1 どんなお仕事ですか。

トラックの冷凍ボデーを架装する会社の営業を担当しています。お客様のニーズに合った最適なボデーを製作するために、お客様へのヒアリング、アドバイス等をさせていただき、設計、製作とも意見を交えたりして、完成したボデーをお客様に提供する仕事です。

Q2 仕事で楽しいときは

難題な要望であっても、創意工夫を凝らし製作したボデーには特に力が入ります。ボデーは10年以上使えるものですので、少しでも便利で丈夫なものを製作したいと考えています。その結果、関東工業のボデーは良いとお客様から言って頂けた時は、営業冥利につきます。

Q3 仕事でつらいこと

ボデーには様々な法規、種類があり、私自身入社3年目でまだまだ知識不足のため、お客様や上司にご迷惑をおかけしてしまうこともあります。そんな時はお客様から教えて頂いて初めてわかることも多々ありますが、後でしっかりと復習し、確実に自分の知識として残すように心がけています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

初めての納車の時、しっかりと内容を確認し、納車前にも再確認を行ったはずでしたが、納車時に、お客様からの指摘を頂きまして、その日は納車とはなりません。そのことがきっかけで、お客様の立場になって、細かな部分まで目を配ることの重要性を知りました。

Q5 御社のPRをしてください!

国内で唯一、FRPモノコック構造という冷凍ボデーを製造しています。お客様のニーズにお応えするため、日々研究・開発を重ねており、低温物流に特化した会社です。営業、設計、製造の各部門がしっかりと結びつき、最後まで責任を持って取り組んでおります。ご相談がありましたら、関東工業までよろしくお願いいたします。

DATA FLASH

2015年1月～6月 会員生産状況概要

① 特装車

- 1月～6月の累計台数は前年比6%増と前年超えではあるが、伸び率が鈍化
- 従来からの牽引役であった震災復興等公共工事用車両のダンプの減少等により3月、5月が前年割れ

② 特種車

- 1月～6月の累計台数は前年比5.9%増と前年超え。警察車両が増加し、量産系は前年比11.8%増
- 胸部レントゲン車や胃及び胃胸部レントゲン車、救急車、キャンピングカーは増加したものの、その他の車種の減少で非量産系は同8.8%減

③ 平ボデートラック(除くシャシメーカー標準車)

- 1月～6月の累計台数は前年比4.7%増、震災復興や代替需要により、大中型平ボデー需要が拡大
- 各社で、大中型平ボデーは3～6か月、建機運搬車、車両運搬車は1年～1年半の受注残有

④ バン

- 1月～6月の累計台数は前年比4.4%増で前年に引き続き伸長
- 大中型のウィング、冷凍車に加えて、中小型のドライバン等が増加

⑤ トレーラ

- 1月～6月の累計台数は前年比1.6%増とほぼ横ばい。3月が消費税増税前の駆け込み需要により前年が高水準だったため、前年割れとなったが、それ以外の月は前年超え
- オリンピック・パラリンピックや震災復興の需要により、コンテナ、ダンプが増加したが、バンが減少

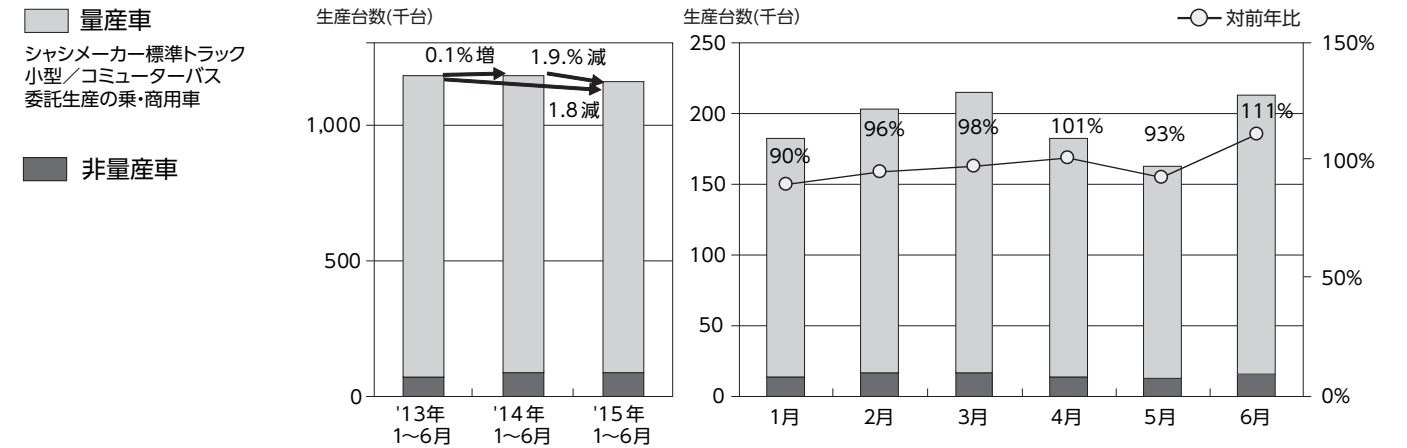
⑥ 大中型バス

- 1月～6月の累計台数は前年比14%減、これは三菱ふそう向けが対象外となったため
- 観光需要の拡大に伴う観光バスの増加により、日野&いすゞ向けは好調

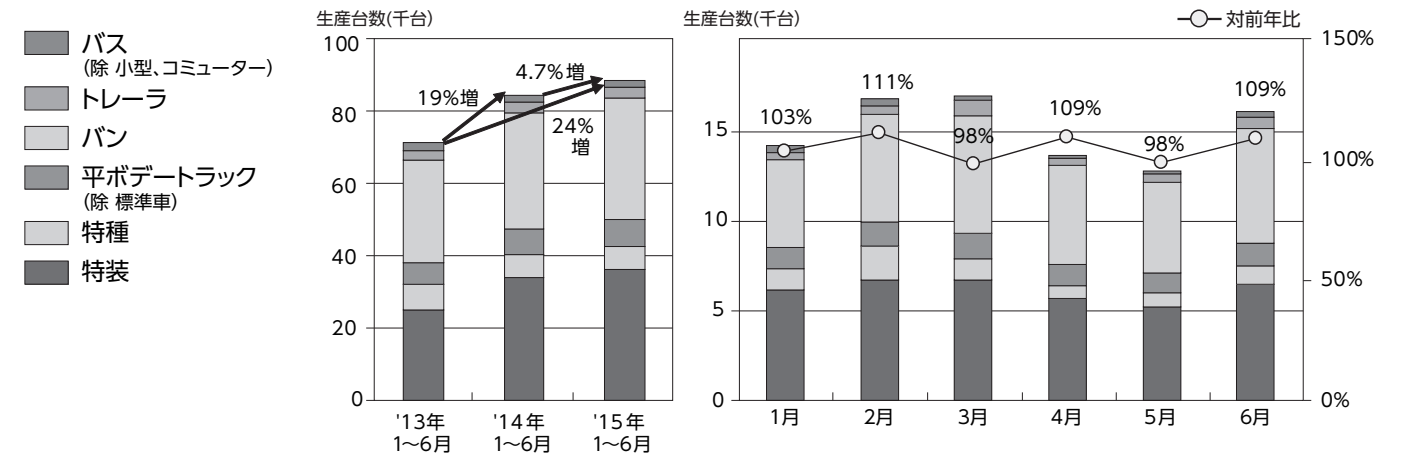
⑦ 乗用・小型商用車・軽

- 1月～6月累計台数は前年比2.7%減
- 国内向けは消費税引き上げ前の駆け込み需要の影響により前年割れが継続したが、6月は15か月ぶりに前年超え
- 輸出向けは1月～6月累計で、前年比1.9%増

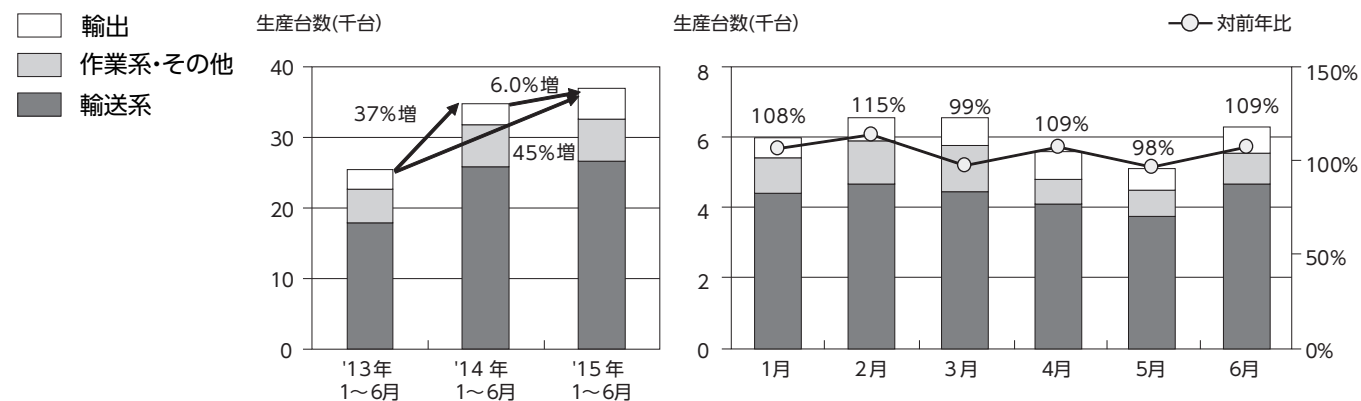
合計(非量産車+量産車)



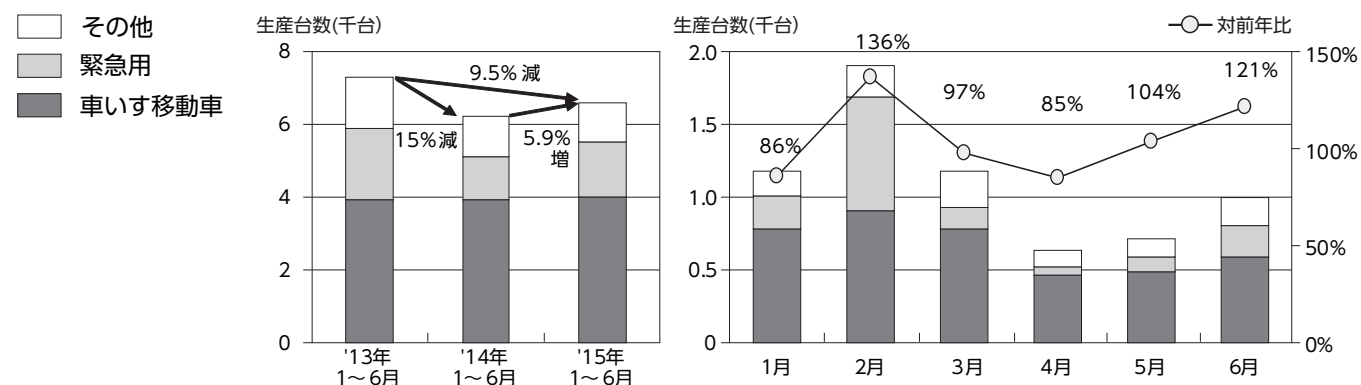
非量産車合計



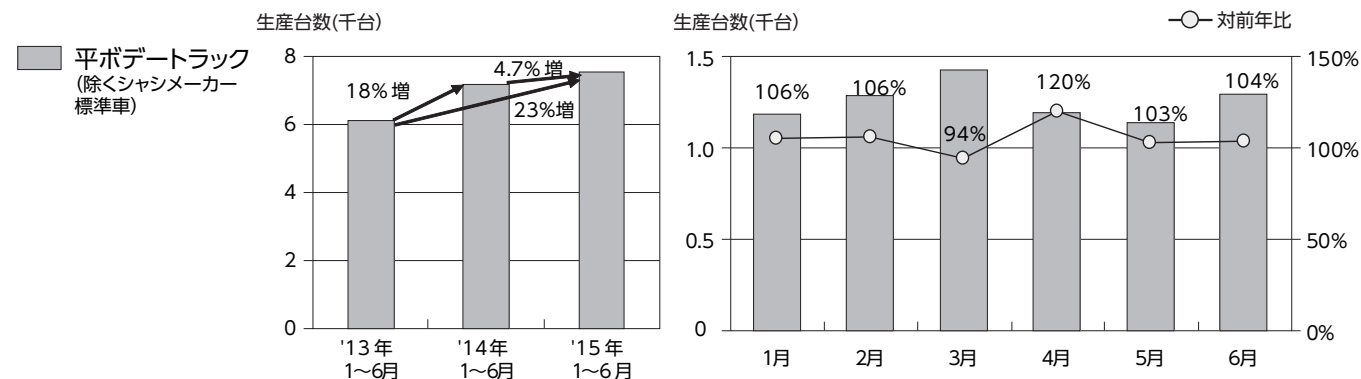
特装車



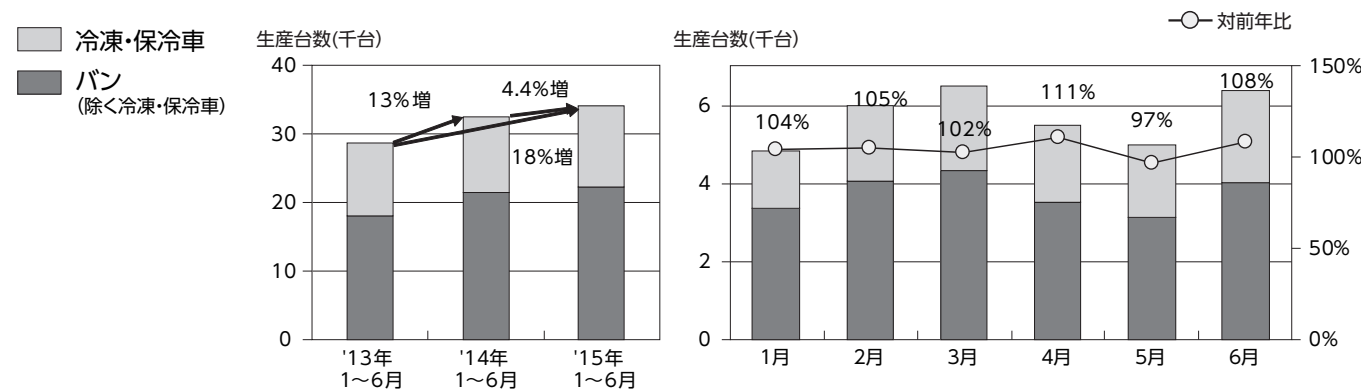
特種車



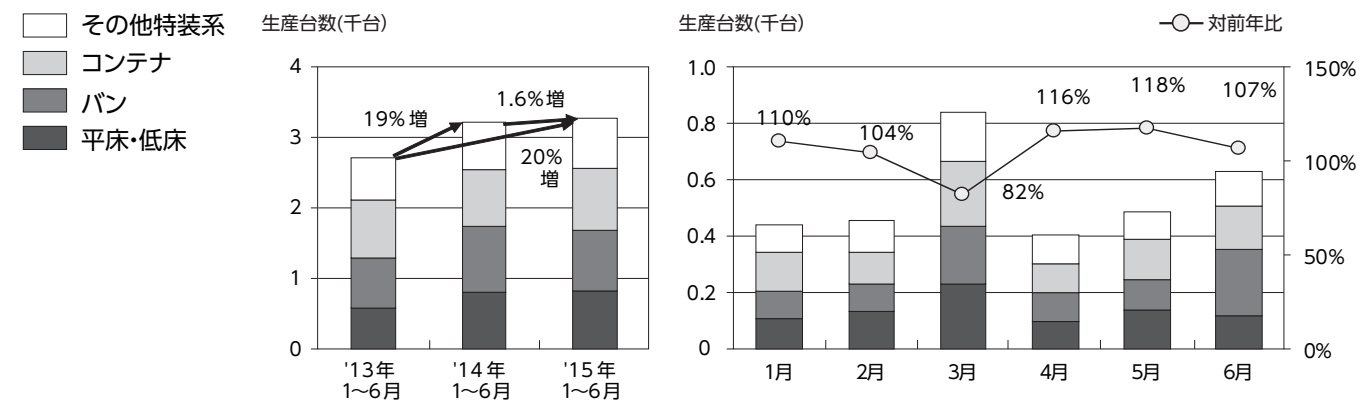
平ボデートラック



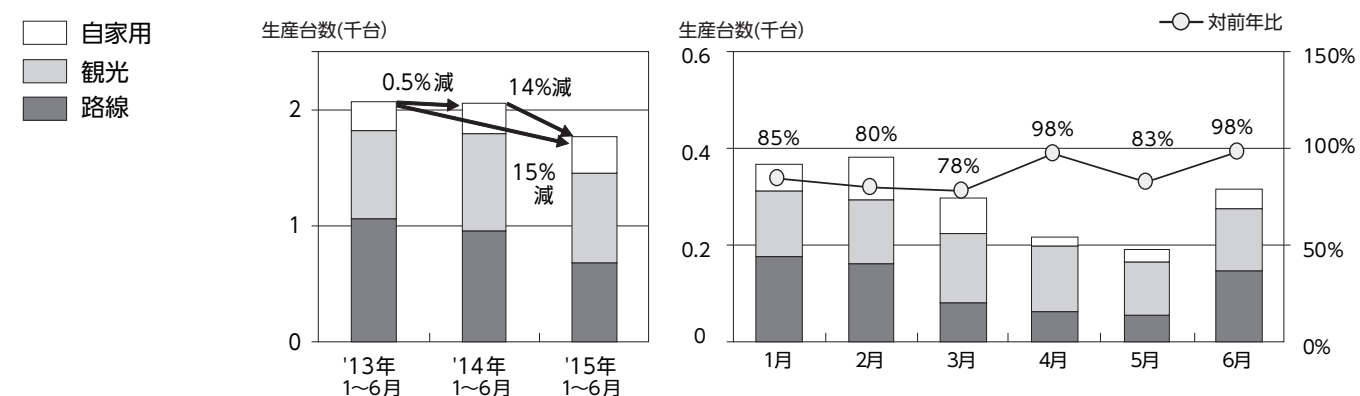
バン



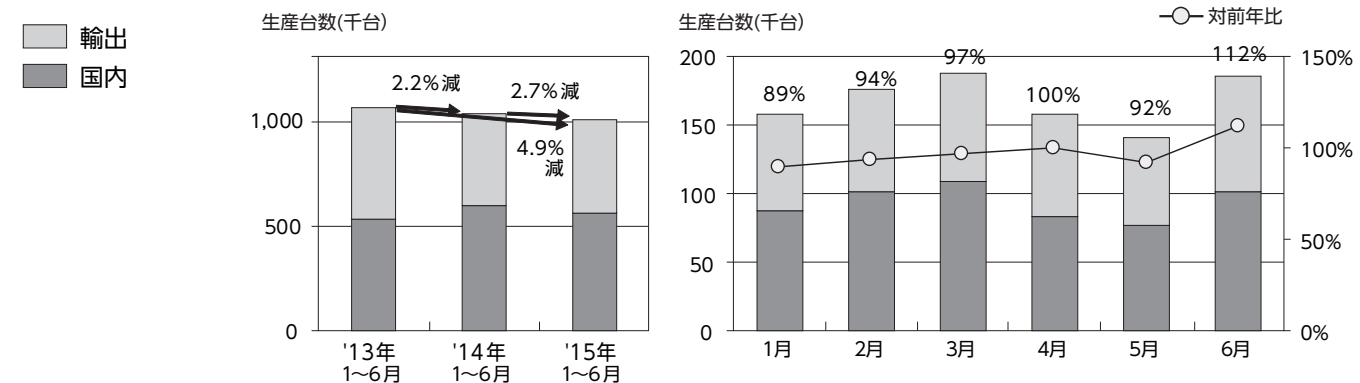
トレーラ



大中型バス



小型車 (委託生産の乗・商用車)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動にともなう業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>



編集後記

今年の夏は戦後70年という節目にあたりあらためて歴史を見つめ直した方も多かったのではないかな。現地に出掛け確認された方、年配の方から貴重な体験を聴かれた方、写真や映像を目にされた方、そして書物に目を通された方など人それぞれで対応は異なる。しかし、わずかな経験であっても多くのことを学ぶきっかけになったのではないかなと思う。

日本人の読書離れが指摘されるようになって久しいが、この夏は話題となった本を手に取り、あっという間に読破し、久しぶりに読書の楽しさや文章の妙を感じた方もいらしたのではないかな。読み取るためには自分の感性を高めることも必要である。また、読んだことで感性が高められるはず。何かをするということは決して一方通行ではなくお互いに作用しあうことにつながる。

夏の甲子園も私たちをわくわくさせ感動を与えてくれる。プレーを通じ、またインタビューから感じる清々しさは素晴らしい。選手は清々しさを与えることを意識してプレーしているのではなく、自らがこれまで行ってきたことを試合で全て出し切ることを考えているはず。その背景には家族、友人、地域の皆さんの支えがあり、感謝の気持ちが笑顔に、時として涙に表れている。これらも選手と応援する人とがお互いに作用しあっていることである。

本号でもご案内させていただいたとおり10月末から東京モーターショーが開催される。働くクルマがどのようなシチュエーションで社会とつながり、作用しあうのかが楽しみである。

(吉田)

表紙写真について トヨタ車体(株)製 ハイエース



力強い走行性能と積載力に優れたビッグスペースを備え、機能性や安全性にも妥協のない姿勢を貫き、常に時代の先頭を走ってきたハイエース。

ロングバン・標準バンからスーパーロングタイプなど、全長・幅・高さで用途に合わせてお好きなタイプを選択でき、これ一台あればビジネスはもとより、アウトドアスポーツや家族でのレジャーなど、毎日の可能性が大きく広がります。

また、ハイエースの活躍の場はグローバル。海外市場での要求レベルは高く、様々な使用環境を想定し、ときに通常の何倍もの耐久試験をこなす。その結果、圧倒的な品質・信頼性を築き上げています。

2015年度 秋季会員大会のご案内

◆ 日 時 2015年10月30日(金) 11:30~12:30
◆ 場 所 東京ベイ有明ワシントンホテル 「アイリス」
東京都江東区有明3-7-11
TEL:03-5564-0111
◇ ゆりかもめ「有明駅」から徒歩3分
◇ りんかい線「国際展示場駅」から徒歩3分
◇ 東京ビッグサイトから徒歩3分

◆ 当日のスケジュール
11:30 開会・会長挨拶
11:35 懇親会(立食)
12:30 閉会・自由解散後、
第44回東京モーターショー2015見学
(当日受付にて入場券を配布いたします)

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

ゴールドキング株式会社 ……表2
スリーエム ジャパン株式会社 ……表3
交通エコロジー・モビリティ財団 ……表4

車体NEWS

AUTUMN 2015 秋

2015年9月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

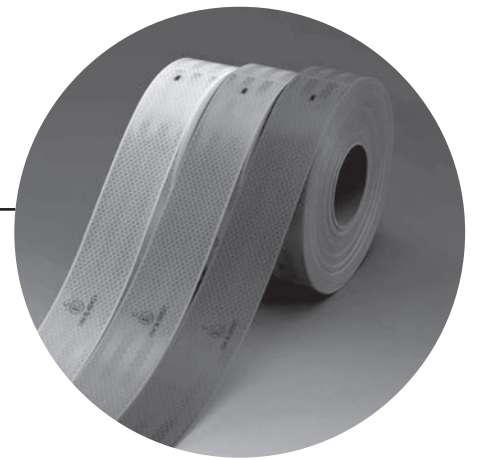
発行人 吉田 量年

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3MTMダイヤモンドグレートTMコンスピキュイティ反射シートと3MTM反射シート680Eシリーズを提供しています。また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカルTMフィルム、コントロールタックTMプラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3MTMダイヤモンドグレートTMコンスピキュイティ反射シート

3MTM反射シート680Eシリーズ

スコッチカルTMフィルム

コントロールタックTMプラスフィルム

事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

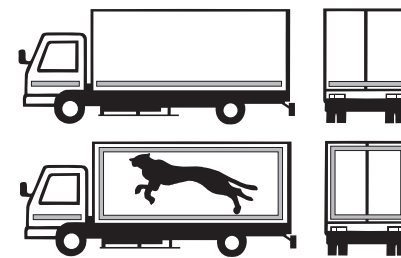
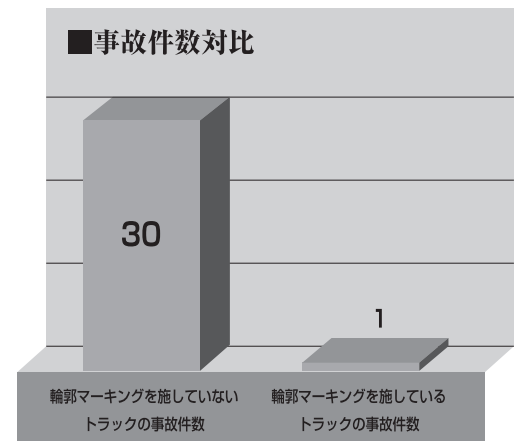
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピキュイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。

スリーエム ジャパン株式会社

トラフィック セーフティ・セキュリティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号
電話 03-6409-3388
URL <http://www.mmm.co.jp>

3M